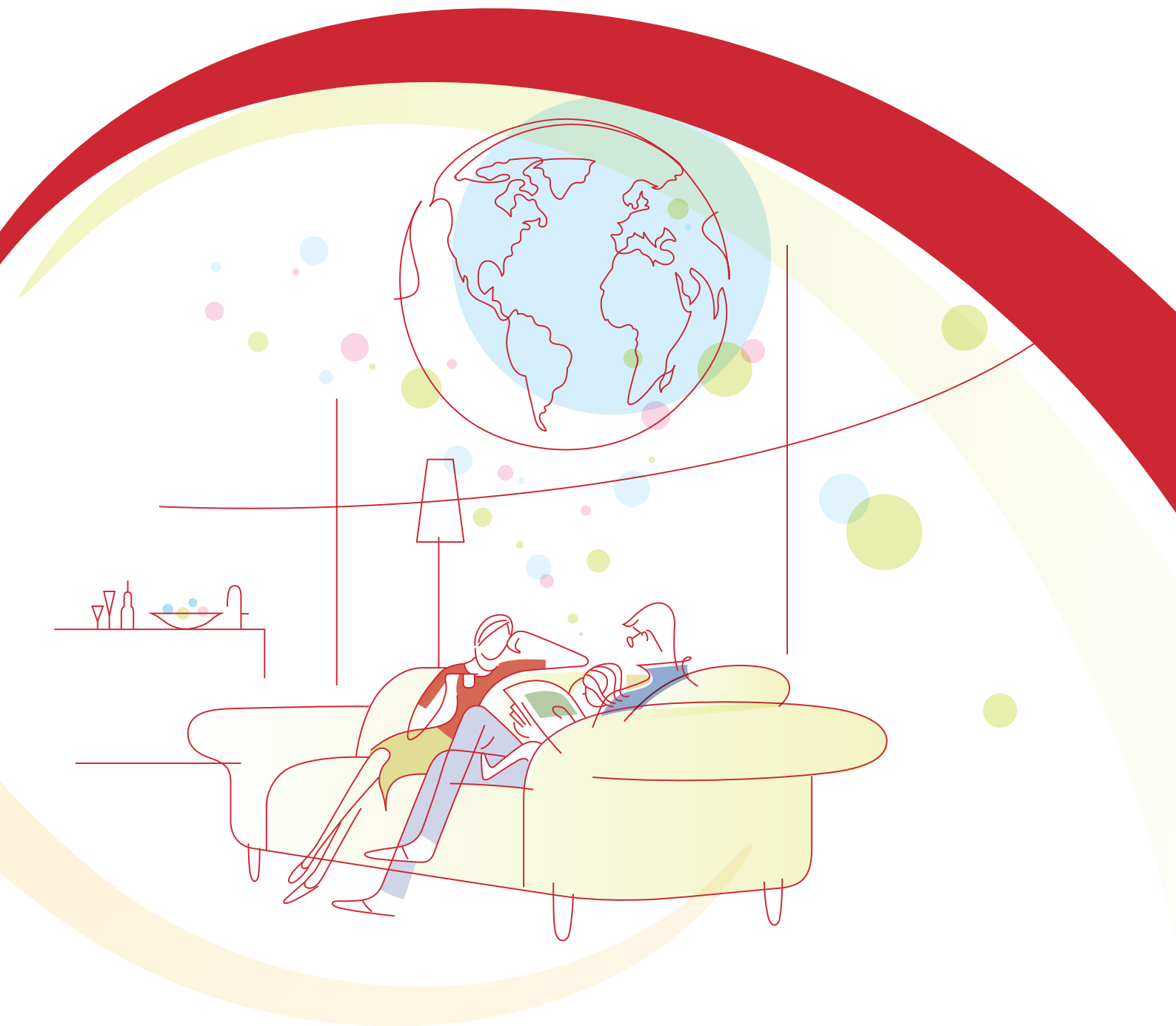




CLEANUP SUSTAINABILITY REPORT 2025

クリナップ | サステナビリティレポート





CONTENTS

- 2 トップメッセージ
- 3 経営理念
- 4 モノづくりの基本思想とビジョン
- 5 Our History
- 7 社長メッセージ
- 11 サステナビリティマネジメント
- 14 **TOPIC** 未来キッチンプロジェクト

15 環境

- 15 クリナップグループ
環境ビジョン2050(CEV50)
- 15 方針・マネジメント
- 17 気候変動への対応
- 20 資源循環の推進
- 21 水資源の有効利用
- 21 化学物質に対する取り組み

22 社会

- 22 社会課題解決につながる
製品・サービスの創出
- 25 安全・安心のための品質保証
- 25 お客さまのサポート
- 26 お客さまとのコミュニケーション
- 27 DEI担当役員インタビュー
- 27 ダイバーシティ・エクイティ&
インクルージョン
- 30 人材育成
- 31 働きやすい職場づくり
- 32 労働安全衛生
- 33 人権の尊重
- 34 CSR調達の推進
- 35 社会、文化性をもった貢献活動

36 ガバナンス

- 36 コーポレート・ガバナンス
- 39 リスクマネジメント
- 39 内部統制
- 40 コンプライアンス
- 41 第三者意見
- 42 会社概要

編集方針

クリナップは、企業理念「家族の笑顔を創ります」のもと、キッチンを起点とした事業を通じて社会への貢献と中長期的な企業価値向上を図っていきます。本レポートは、当社グループを取り巻く幅広いステークホルダーの皆さまと、さらなる対話のきっかけとなることを目的に、クリナップのサステナビリティに関する考え方やESG・SDGsにかかわる2024年度の取り組みを、環境(E)社会(S)ガバナンス(G)に沿ってお伝えします。

〈対象組織〉

原則として、クリナップとすべての連結子会社を対象としています。

- ・クリナップ株式会社
- ・株式会社クリナップステンレス加工センター
- ・井上興産株式会社
- ・クリナップロジスティクス株式会社
- ・クリナップテクノサービス株式会社
- ・クリナップキャリアサービス株式会社
- ・クリナップハートフル株式会社
- ・クリナップソリューション株式会社
- ・可麗娜厨衛(上海)有限公司

(温室効果ガスを除く環境データの範囲)

原則として、以下の組織を対象としています。

- ・クリナップ株式会社(生産本部)
- ・株式会社クリナップステンレス加工センター
- ・クリナップロジスティクス株式会社

上記以外を範囲とする場合は、範囲を別途記載しています。

〈対象期間〉

2024年4月1日～2025年3月31日
一部対象期間外の報告を含んでいます。

〈発行年月〉

2025年9月(前回発行：2024年9月)
年1回発行

〈参考ガイドライン〉

- ・GRI「GRIサステナビリティ・レポーティング
スタンダード」
- ・環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
- ・ISO「ISO26000」

〈問い合わせ先〉

経営企画部 サステナビリティ推進課
Eメール：grp.sdgs@cleanup.jp

トップメッセージ

企業理念 「家族の笑顔を創ります」の 実現に向けて

クリナップの創業は1949年。

長年にわたりキッチンをはじめとする水まわり商品をつくり、家族の暮らし方を提案してきました。

“私たちは何のために存在し、企業活動を続けるのか”。

この基本となる考えを表すのが企業理念「家族の笑顔を創ります」であり、

クリナップの企業活動のすべてが、この理念の実現に向けられています。

今なおクリナップが存続していただけるのは、社会に生かされ必要とされてきたからこそであり、

その謙虚な心なくして、私たちの未来はないと考えています。

社会は、気候変動や生物多様性などの環境課題をはじめ、

DX(デジタルトランスフォーメーション)によるビジネス変革などによって、大きな転換期を迎えています。

さらに、企業経営においてDEI(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)が重要視され、

多様な人材の受け入れや支援、個性・能力が発揮できる公平な活躍の場を創出することで、

人と企業が共に成長していくことが求められています。

このような社会状況のなか、私たちは企業存続と同時に

「社会の公器」としての自覚を持ち、持続可能な社会の実現に貢献していかなければなりません。

その目的のために、将来を見据えた長期ビジョン「クリナップサステナブルビジョン2030」を掲げ、

サステナビリティ重要課題の解決をベースに、クリナップグループの強みを活かして

長期的目線で経営に取り組んでいます。

クリナップグループは、経営としての事業活動のなかに、さらなる企業価値の向上と持続的成長を目指し、

企業理念「家族の笑顔を創ります」の実現に向けて邁進してまいります。



代表取締役会長

井上 強一



代表取締役 社長執行役員

竹内 宏

経営理念

クリナップは「創業者理念」「企業理念」「行動理念」の3つを理念として定めています。

最上位には創業者が求めた五つの経営信条である創業者理念「五心」を掲げ、その信条を学んだ社員たちが定めた企業理念が「家族の笑顔を創ります」です。クリナップの企業活動のすべてが、この企業理念の実現に向けられています。さらに、社員たちが日々行動するための価値基準を行動理念として定めることで企業理念の実現方法を具体化しています。

創業者理念「五心」

一、創業の心

我々は一家一族の精神に則り喜びも苦しみも領ち合い
永遠に発展する会社をつくらねばならぬ。

一、親愛の心

親愛の心は家庭・企業・社会の基である。
人との心の繋がりを大切に、信頼し努力しあって生きよ。

一、創意の心

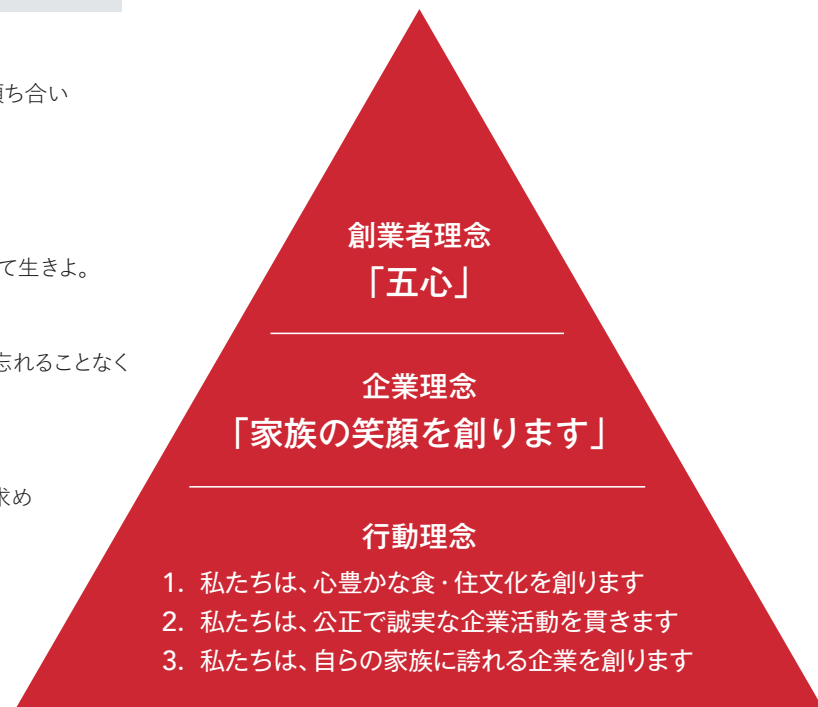
創意・開発は我が社の生命である。この心を忘れることなく
会社の繁栄をはかり社会に貢献せよ。

一、技術の心

新たな市場の創出のため、広く技術を内外に求め
集約せよ。そして技術を生む知恵を磨け。

一、使命の心

我が社の使命は社業を通じ社会に奉仕する
ことにある。常に感謝の心を忘れることなく
邁進せよ。



企業理念

「家族の笑顔を創ります」

この理念は、クリナップが現在、あるいは将来において実践する活動の方向性や領域、提供する価値、使命などを凝縮しています。クリナップが何のために存在し、企業活動をするのかの根幹を表し、これを全社員で共有し実践することで本当の笑顔を創り、お客さまや家族、そして社会へと広げていくことを意味しています。

行動理念

1. 「私たちは、心豊かな食・住文化を創ります」
2. 「私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます」
3. 「私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります」

クリナップの行動理念は、私たち一人ひとりが企業活動の中で日々行動するための価値基準、指針を定めたものです。

1. 「心豊かな食・住文化を創る」ため、常に時代にふさわしい感性を磨き、社会動向や生活者の暮らしを見つめ続けることで、新たな商品やサービスを生み出し、「食と住」このふたつの文化の交点において豊かな暮らし価値をお届けしていきます。
2. 人としての基本的な精神性（「親愛・信頼・感謝」の心、「社会貢献」）や人権を尊重する精神、道徳・法令等の社会規範の遵守を通じて、「公正で誠実」な個人からなる、「公正で誠実」な企業活動を貫きます。
3. クリナップとしての活動のすべてにおいて、笑顔を絶やさず、努力し、仲間をいたわり、社会に向き合うことで「自らの家族に誇れる」企業を目指します。

モノづくりの基本思想とビジョン

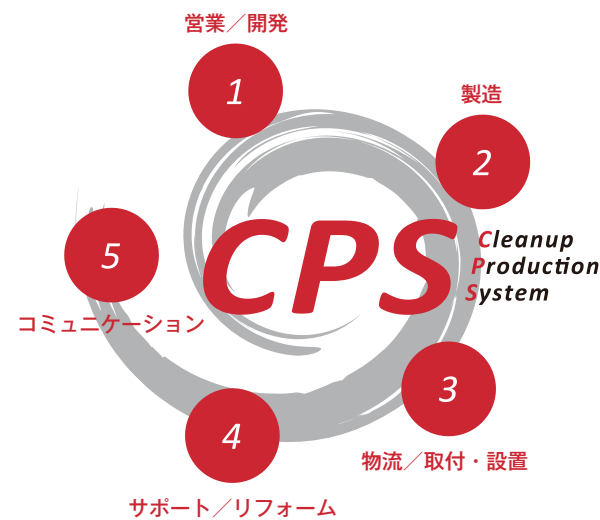
クリナップは、経営理念である「家族の笑顔を創ります」を実現するために、明確なビジョンを掲げています。確かなモノづくりの基盤を築き、お客さまに喜んでいただける製品を提供するとともに、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。

モノづくりの基本思想「CPS（Cleanup Production System：クリナップ・プロダクション・システム）」

クリナップには、経営理念を実現する独自のシステム、CPSがあります。製品在庫を持たずに、「必要なモノを、必要な時に、必要なだけ生産する」、受注生産型の製造・販売システムです。販売、調達、製造、物流、取付・設置を精緻な情報連携・作業連携で結び、高品質な商品を適正な価格で迅速かつタイムリーにお客さまのもとへお届けします。また、「モノづくり」の発展の要は「人づくり」にあると考え、CPSに取り組む過程で技術開発や現場改善に強い人財育成にも力を注いでいます。

これら「改善活動」と「人財育成」の推進を通じて企業体質を強化するとともに、顧客満足向上につながる「品質」「納期」「価格」「サービス」の実現を可能とする強い経営体質を追求していきます。

「CPS」について(会社案内P.7-8)
https://cleanup.jp/company/pdf/202407_corporateProfile.pdf



クリナップサステナブルビジョン2030(CSV30)

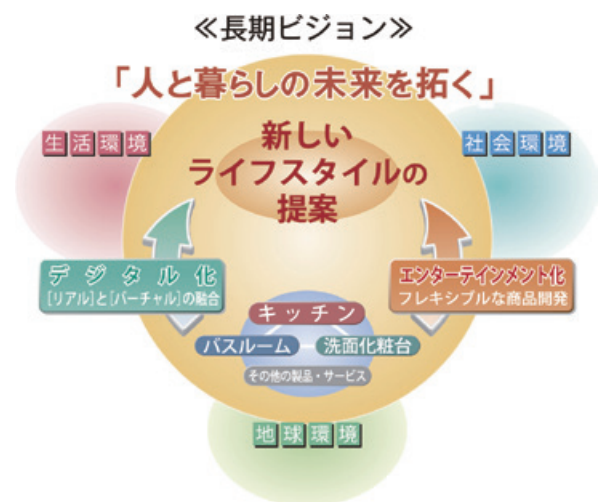
クリナップは2021年に「人と暮らしの未来を拓く」のスローガンとともに、2030年のありたい姿を長期ビジョン「クリナップ サステナブルビジョン 2030(CSV30)」として発表しました。

「人と暮らしの未来を拓く」

私たちクリナップは、システムキッチンのパイオニアとして、新たな食住空間の可能性を広げ、創造し、世界中のすべての家族から選ばれ続ける企業になります。

〈重点指針〉

1. キッチンメーカーとして新たな事業領域に挑戦し、安定した収益基盤をつくらせている
2. 顧客接点の多様化、デジタル化に対応し、より身近で選ばれ続ける存在になっている
3. 人財を活性化し、能力を最大限発揮できる職場づくりを実現できている
4. 持続可能な社会の実現に貢献できる会社になっている



Our History

モノの豊かさから心の豊かさへ

クリナップグループは、座卓製造の創業から一貫して事業を通じた「家族の笑顔」につながるモノづくりや社会、環境などに貢献する活動を続けてきました。そしてこれからも、新たな暮らし価値の創造で、笑顔あふれる豊かな暮らしを創っていきます。

1960～
モノが豊かな暮らし
誰もがモダンで豊かな食住環境を
享受できるようになる

1956 ダイニングキッチン の普及が始まる
1963 日本初の高速道路開通
1970 大阪万博開幕

1980～
個性が尊重される
画一的な大量生産から個性が
尊重される時代に変化

1983 東京ディズニーランド開園
1986 男女雇用機会均等法施行

1990～
家事が見直される
共働き世帯の増加に伴い、
家事の分担に変化

1992 国家公務員の週休2日制スタート
1997 共働き世帯数が半数を上回る

2000～
健康、安全・安心、多様なライフスタイル
高齢社会に突入。
健康や安全、環境、多様性への関心が高まる

2005 65歳以上が人口の20%を超える
2007 団塊世代の退職が始まる
2011 東日本大震災が発生
2015 SDGsが国連で採択
2020 コロナ禍で新生活様式が広がる
2025 大阪・関西万博開幕

クリナップ
サステナブルビジョン 2030

人と暮らしの 未来を拓く

キッチン、バスルームの
固定概念にとらわれない食住空間を
提案していきます

事業のあゆみ

1949
東京都荒川区で
個人経営を開始

1960
井上工業(株)に改称し、
座卓からステンレス流し台へ
業態転換

1961
商標「クリナップ」誕生

1983
クリナップ(株)に商号を変更

1986
新生産方式CPS(クリナップ・
プロダクション・システム)を導入

1996
クリナップ研究所を設立

2007
20年サポートプログラム「スマイル20」が
スタート

2009
創業60周年を第二の創業とし、
企業理念「家族の笑顔を創ります」を制定

2012
コンセプト型ショールーム「クリナップ・キッチンタウン」を
大阪で初オープン

2013
東日本大震災を契機に、生産を東日本と西日本の
2極体制に

2021
長期ビジョン「CSV30」を発表

2023
未来キッチンプロジェクトを始動

Kitchen

1949
座卓製造販売を開始。
クリナップの原点



1960
ステンレス流し台の
製造販売を開始
(写真は昭和34年試作品)



1973
日本初のシステム
キッチンが発売



1983
業界初の簡易施工型
システムキッチン
「クリンレディ」が発売



1999
業界初、足元部分を引出
し収納にして収納力アップ、
「フロアコンテナ」を開発



2007
業界初、フィルター自動洗浄機
能があり節水にも貢献する
「洗エールレンジフード」が発売



2011
レアメタル削減のステン
レスキャビネットキッチン
「クリンレディ」が発売



2018
70周年を機に主力システムキッチンブランド
を刷新し、「CENTRO」「STEDIA」を販売



2025
「天然木ワークトップ」、自動洗
浄「かつてにクリントラップ」を
搭載した新「STEDIA」が発売



Bathroom + Washstand

1970
当社初の洗面化粧台
「B型」が発売



1978
カラーステンレス浴槽
「メルヘン」(人魚姫)を
発売



1987
ステンレス浴槽の
システムバスルーム
「きらら」が発売



1997
ユニバーサルデザインを採用
したシステムバスルーム「ラク
シーユ」が発売



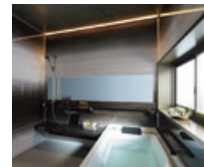
2004
システムバスルーム
「アクリアパス」
洗面化粧台
「アクリアサールン」が発売



2009
小さな子どもとの入浴を
考えたシステムバスルーム
「hairo」が発売



2016
システムバスルーム
「アクリアパス」をリ
ニューアル



2024
リビングのような使い方、楽しさを
取り入れた新コンセプト「リビング
バスルーム」を発表



洗面化粧台「ELVITA」
システムバスルーム「SELEVIA」

サステナビリティ活動

ダイバーシティ

2008
・特例子会社クリナップハートフル(株)設立
・女性活躍推進委員会を設置し、活動開始

2016
障がい者が働く
「クリ夫のパン屋」オープン

2025
「Cleanup DEI Statement」を制定

環境

1999
ISO14001認証を
一部工場で初取得

2001
リターナブル梱包を
導入開始

2004
グループ全体で
ISO14001認証を取得

2013
共同配送開始による
環境負荷軽減

2022
太陽光発電を
開始

2023
・SBT認定を取得
・環境ビジョン「CEV50」を発表

文化・社会貢献

1980
中国から技術研修団受け入れ

1992
レスリング部を創部

2005
有料老人ホーム
「感謝の郷いわき」をオープン

2012
・「弁当の日」応援プロジェクトに協賛
・福島県の被災地復興支援としてクリナップ財団を設立

2023
未来キッチンイラストコンテストに協賛

社長メッセージ

社員一人ひとりの力を結集し 企業価値のさらなる高みを 切り拓いていきます

代表取締役 社長執行役員

竹内 宏



難局を打開し、グループ総力で挑む 経営基盤の抜本変革

クリナップグループは企業理念「家族の笑顔を創ります」のもと、システムキッチンのパイオニアとして、新たな食住空間の可能性を探索し続けています。2021年に策定した長期ビジョン「クリナップサステナブルビジョン2030 (CSV30)」では、「人と暮らしの未来を拓く」をテーマに、

事業戦略と基盤強化の両面における進化を見据えた目標を設定し、企業価値のさらなる向上に取り組んできました。そして、「2024 中期経営計画」を「成長を支える経営基盤の強化フェーズ」と位置づけ、クリナップグループの経営の根幹である人材・環境・サプライチェーンなど多方面にわたる基盤の強化に注力しています。

前中期経営計画では、ESGやSDGsの視点を取り入れた経営基盤の強化において一定の成果を上げることができ

長期ビジョン：クリナップ サステナブルビジョン 2030 (CSV30)

「人と暮らしの未来を拓く」

私たちクリナップは、システムキッチンのパイオニアとして、
新たな食住空間の可能性を広げ、創造し、世界中のすべての家族から選ばれ続ける企業になります。

〈重点指針〉

1. キッチンメーカーとして新たな事業領域に挑戦し、安定した収益基盤をつくらせている
2. 顧客接点の多様化、デジタル化に対応し、より身近で選ばれ続ける存在になっている
3. 人財を活性化し、能力を最大限発揮できる職場づくりを実現できている
4. 持続可能な社会の実現に貢献できる会社になっている

クリナップ サステナブルビジョン2030(CSV30)
戦略シナリオ大枠

21中計重点施策の実施

- 戦略1 既存事業の需要開拓、
低収益からの転換
- 戦略2 新規事業による
新たな顧客の創造
- 戦略3 ESG／SDGs視点での
経営基盤の強化

24中計ファン化促進、 専業力強化

- 戦略1「ファン化促進」による成長
拡大、収益力の向上
- 戦略2「専業力強化」による経営
基盤の次世代化
- 戦略3 資本収益性の重視と
利益還元の拡充戦略

27中計持続的な成長への 戦略投資

企業価値の向上

基盤強化

ESG／SDGs視点での 経営基盤の強化フェーズ

- ・サステナビリティ推進体制の整備
- ・非財務目標の設定
- ・ESG／SDGsの重要課題についてリスクと機会を
認識してリスク低減と機会拡大のための
重点取組を推進

成長を支える経営基盤の 強化フェーズ

- ・成長投資：生産変革(省人化対策等)、工場再編、研究開発
- ・人材投資：新人事制度改革、働きやすい職場づくり、DX人材育成
- ・環境対策：太陽光発電設備設置、ボイラー燃料の低炭素化、
環境対応車両への切り替え
- ・サプライチェーン対策：安定した供給能力の維持

社長メッセージ

ました。その勢いを維持しつつ、2024年度は、事業活動におけるGHG排出量削減やダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進プロジェクトが順調に進捗したことに加え、長期視点での住空間を思考する未来キッチンプロジェクトの着実な推進など、経営基盤が強化されている手ごたえを感じています。一方で財務面に関しては、資材高騰の煽りを受けて厳しい結果を強いられています。今後についても、人口減少による新築着工の減少が見込まれ、この難局を乗り切るには、グループの総力を挙げた抜本的な改革が不可欠と考えています。

「Cleanup DEI Statement」による 挑戦する企業風土への変革

中期経営計画においては、キッチンからサニタリーに展開した住空間への新たな提供価値、海外市場への参入・事業拡大など、「ファン化促進」による成長拡大、収益力の向上、「専業力強化」による経営基盤の次世代化を戦略とし、目標を掲げています。目標の達成に向けて着実に推進していく原動力は、社員一人ひとりのモチベーションであることに疑う余地はありません。すべての社員が公平・公正に扱われ、能力を最大限に発揮できる働き方で社員のモチベーションを高め、事業推進の原動力にする。これこそサステナビリティ重要課題の一つとして設定しているDEI推進の目指すところです。

2025年5月には「Cleanup DEI Statement」を表明しました。DEI推進の意義を社内外に示す重要な宣言であり、経営戦略の一つとして位置づけています。宣言とともに私からのメッセージとして、「挑戦を支え合う風土を作り、新しい価値の創出に挑戦し、グループ全体の持続的成長につなげ、社会に貢献する」と記しました。

クリナップでは、DEI宣言を公表する以前から、経営目標として女性活躍を掲げ、ショールームでの女性課長の登用を始めとした女性活躍の施策を積極的に推進してきました。

しかし、グループ全社員を対象にしたアンケート結果で

は、キャリアについて気軽に上司に相談できている社員が少ないことが分かり、私が目指している挑戦を支え合う風土ではないことに懸念を感じました。さらなるキャリアアップを臨む挑戦意欲があったとしても、その想いを表に出せないでいる現状があるのではないかと認識しています。

例えば、ある営業所では男性社員が6カ月の育児休業を取得したことを契機に、業務分担の見直しが行われました。その結果、担当業務の幅が広がった社員が「自分たちはもっと仕事ができる」と気づき、営業所内のコミュニケーションが活性化。全国1位の売上を達成するという成果につながりました。会社全体からすれば小さな事例の一つかもしれませんが、DEI推進の取り組みは理念にとどまらず、業績に直結する可能性を示したものと実感しています。

また現在、海外支店で営業を担当している女性がいますが、彼女は自ら海外勤務に手を挙げ、会社もそれに応えました。多様なキャリアパスがあることを社内を示すことができ、きっと他の社員のモチベーション向上につながると確信しています。

DEI浸透の真価が問われる 東南アジアでの海外事業

国内市場が飽和するなか東南アジアは新たな成長事業となる重要なマーケットです。現在、台湾と東南アジアに支店、上海に駐在事務所を設け、台湾、タイ、中国、シンガポール、マレーシアなどで、事業展開を進めています。

国内では岡山工場で技能実習生を受け入れ、将来の海外生産拠点整備を見据えた外国人労働者の育成ノウハウを蓄積しています。生産本部や海外事業部では、東南アジア、中国からの外国人材を採用し、東南アジア諸国との友好関係を深めながら事業を推進する役割を担ってもらうことを期待しています。

文化や生活習慣、考え方が異なる仲間たちと、共に一つの事業を創り上げ価値を創造するには、より深いところでのDEIの理解が求められるはずで。その時のためにも方

針発表大会や社内報などを通じて全社員に対して、共に働く仲間やお客さまに対して何か困っていないか、何をしたいのか興味を持って対話することと呼びかけています。価値観の異なる人と対話し、お互いを認め合うことこそDEIの考え方にほかなりません。当社グループのあらゆるところで実践し得ることです。一人ひとりが変われば、部署が変わり、やがては会社そのものも変えていけると確信しています。

対話と行動によって実現する 持続可能なサプライチェーン

もともと私は、気になることがあればとことん突き詰めずにはいられない性分です。分からないことがあれば、自ら現地に足を運び、この目で確かめ、この耳で聞くようにしてきました。そうした積極的な動きがきっかけとなり、ここ数年取り組んできた持続可能なサプライチェーンの整備も、目に見えるかたちで前に進んでいます。

発端は、当社製品の取付・設置を委託している業者さまと対話を通じて、人手不足や重量物の運搬による身体的負担、さらに業界の慣例でサービスとされていた作業も、その負荷が大きくなってきており、それに見合った賃金面での課題に直面している現状を目の当たりにしたことでした。この状況を看過すれば、そう遠くない将来、私たちの製品をお客さまのもとに届けることが困難になるでしょう。これは当社だけの問題ではなく、システムキッチン・システムバス業界全体の存続にもかかわる大きな問題であるという危機感を募らせました。

これを受けて、当社では現場の作業負担を軽減すべく、製品の軽量化を実現しました。次なる大きな課題として収益構造の見直しに着手し、これまで無償で提供してきた一部の作業について、有償化を進めています。取付・設置業者さまを、クリナップのブランドを共につくり上げる大切なパートナーと位置づけ、真摯な対話を重ねてきました。お客さまに対しても、その趣旨をご理解いただけるよう丁寧な説明を心がけながら、改善を図っているところです。

また、キッチン・バス工業会の会長という立場から、この課題を業界全体の問題として提起し、より多くの人材が集い、将来にわたって持続可能な魅力ある業界へと進化させていくことこそが、私にとっての大きな挑戦であると強く認識しています。

進取果敢に挑む 企業価値と未来の革新

現在進めている改革は、全社を挙げて取り組むべき、大きなチャレンジです。ときに「前例がないから難しい」といった声が聞こえてくることもあります。確かに、新たな一步を踏み出すには、相応のエネルギーが求められます。現状にとどまっていれば、大きな苦労は避けられるかもしれませんが、居心地のよさも感じられるかもしれません。しかし、それでは企業としての価値は、やがて確実に失われていきます。

「興味」をもって物事に向き合い、「挑戦」をもって一步を踏み出す進取果敢な組織へと生まれ変わるべく、この変革を力強く先導し、企業価値の向上と持続可能な未来の創造に努めてまいります。



クリナップグループのサステナビリティ

企業理念「家族の笑顔を作ります」を事業活動を通して具現化することで、持続可能な社会に貢献しつつ自社の持続的成長を目指すことが、クリナップグループが考えるサステナビリティです。この考えのもと、2023年に「CSR方針」を見直し、新しく「サステナビリティ方針」を策定しました。

また、クリナップグループは、中長期的に経営基盤強化と企業価値向上を図るため、クリナップグループとして目指すべき方向性を明確にした長期ビジョン「クリナップ サステナブルビジョン2030 (CSV30)」、「2024 中期経営計画」 およびサステナビリティ重要課題を軸に、サステナビリティ活動を推進していきます。

サステナビリティ方針

- 私たちクリナップグループは、企業理念「家族の笑顔を作ります」のもと、全てのステークホルダーとの対話を重視した事業活動を通じて、持続可能な社会の発展と企業価値の向上を目指します。
- 「心豊かな食・住文化を創る」という理念のもと、安全で高品質な商品とサービスをもって、お客さまと社会に新たな暮らし価値を提供し続けます。
 - 社会性、文化性をもって積極的に地域社会と関わりを持ち、地域の発展に貢献します。
 - 全ての事業活動においてサプライチェーンと協働で環境課題に取り組み、地球環境との共生を目指します。
 - 各国・地域の法令等を遵守し、人権および多様な価値観を尊重するとともに、サプライチェーン全体での公正で透明な事業活動を推進します。
 - 社員が健康的に安心して働くことができ、多様な人材が活躍できる職場環境や企業風土の実現に取り組みます。
- (2023年9月1日)

ガバナンス(サステナビリティ推進体制)

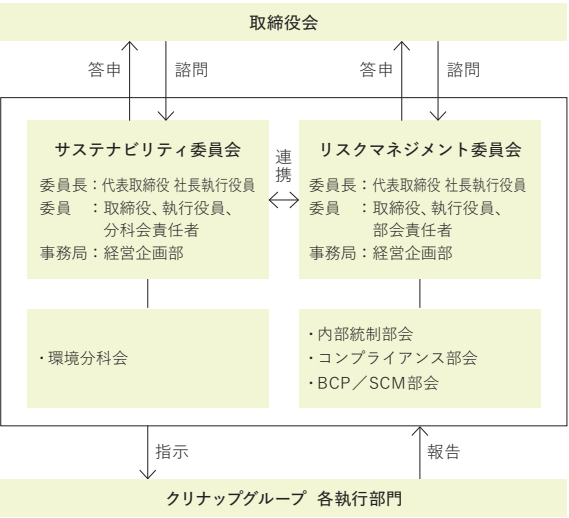
クリナップグループは、サステナビリティの推進体制として代表取締役 社長執行役員を委員長とする「サステナビリティ委員会」、「リスクマネジメント委員会」を設置しています。

サステナビリティ委員会は、当社グループの持続可能な社会の実現に向けた活動の方向性や目標設定、重要課題にかかわる活動の進捗状況を管理しています。

重要課題のうち環境にかかわる課題に対しては、当委員会の傘下に設置した「環境分科会」、人的資本にかかわる課題に対しては、人事部門およびDEI(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)推進プロジェクトが対応し、実行計画、進捗状況などをサステナビリティ委員会に報告する体制をとっています。リスクマネジメント委員会は、対処すべきリスクの発生を事前に把握・管理し対策を講じるとともに、全社で将来起こり得る損失の発生についての予測・低減・回避に取り組んでいます。当委員会の傘下には「内部統制部会」「コンプライアンス部会」「BCP(事業継続計画)／SCM(サプライチェーンマネジメント)部会」を設置し、活動状況をリスクマネジメント委員会に報告する体制をとっています。

グループ会社の役員が両委員会に参画し、各社サステナビリティ活動を展開しています。

サステナビリティ推進体制図



リスク管理

当社グループは、サステナビリティに関する課題が事業活動へ与える影響を多面的にとらえ、当社グループにとってのリスクを認識し、重要課題を特定しています。これらのリスクは、サステナビリティ委員会で、特に重要と判断したリスクを「重要リスク」としてリスクマネジメント委員会に報告・共有する体制をとっています。リスクマネジメント委員会は、その報告を受けて、現行の管理指標・対策等の進捗を踏まえて、重要リスクの取り扱いについて検討し、対応を決定しています。取締役会は、サステナビリティ関連のリスクと機会について、監督責任を担い、全社的な対応を統括しています。

なお、毎年これらリスクと機会について、サステナビリティ委員会で見直しの要否を確認しています。

戦略

クリナップグループは、「CSV30」を戦略的に進めるべく、2024 中期経営計画以降を「成長を支える経営基盤の強化フェーズ」と位置づけ、事業活動と統合した取り組みを推進できるように、2024 年に重要課題 (ESG・SDGs 課題) を、8 つのサステナビリティ重要課題に深化させました。また、重要課題ごとに当社グループの事業に影響を与える可能性があるリスクおよび機会を特定しています。

サステナビリティ重要課題およびリスクと機会

	サステナビリティ重要課題	リスク	機会	課題解決に向けた重点取組	掲載ページ
E	気候変動への対応 7 気候変動への対応 12 つながる未来 13 気候変動への対応 17 パートナシップで持続可能な社会を創る	炭素税導入等の規制強化によるコストの増加 台風や洪水等の被災による操業停止	省エネ等、CO ₂ 削減に貢献する製品の市場拡大 低炭素なモノづくりによる企業価値向上	[Scope1,2の取り組み] 再生可能エネルギー採用／太陽光発電導入／老朽化設備入替／エネルギー転換／ハイブリッド自動車への切替／省エネ推進活動 [Scope3の取り組み] 低CO ₂ 材料採用の検討／材料生産性の向上／サプライヤーへの働きかけ／省エネ機器採用推進／お客さまへの啓発活動推進	P.17-19 P.17-19 P.24
	資源循環の推進 12 つながる未来 13 気候変動への対応 15 気候変動への対応	資源循環の対応遅れによるお客さまの離反	3Rに対応したモノづくりによる企業価値向上	持続可能な材料の使用／製品の3R推進	P.20-21
	水資源の有効利用 6 持続可能な社会を創る 12 つながる未来	節水製品の開発遅れによるお客さまの離反 水不足による操業への影響	節水製品の市場拡大	製品の水使用量削減／事業活動における水使用量の削減	P.21、24
S	社会課題解決につながる製品・サービスの創出 3 すべての人に健康と福祉を 6 安全なエネルギー 9 産業と地域経済の活力強化 11 住み続けられるまちづくりを	多様化するお客さまのニーズに対する当社製品のミスマッチ 環境配慮製品の開発の遅れによるお客さまの離反	ライフスタイルに即した新たな生活空間の創出 環境や健康に配慮した製品の市場拡大	SDGs視点の製品・サービス指針に基づいた開発の推進	P.14 P.22-26
	働きやすい職場づくり 3 すべての人に健康と福祉を 8 働きがい、健康と福祉	労働生産性の低下や人材獲得の競争激化 ダイバーシティや人権対応の遅れによる企業イメージの毀損 社員の健康被害、健康関連費用の増加	多様な人材活用を通じたイノベーションの創出 社員の健康増進による生産性およびモチベーション向上、それを通じた企業価値向上	社員エンゲージメント向上のための新人事制度構築／多様な働き方推進への取り組み／社員の健康増進の取り組み／労働安全衛生マネジメントシステムの推進	P.31-33
	ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン (DEI) 5 ジェンダー平等を促進しよう 8 働きがい、健康と福祉 10 人々の権利と尊厳を全うしよう			社員のキャリア形成支援／女性活躍推進／男性育休取得／障がい者への就労機会提供	P.27-30
	社会性、文化性をもった貢献活動 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 17 パートナシップで持続可能な社会を創る	地域社会との信頼関係の希薄化による事業活動の停滞	地域社会との共生による事業の安定化、企業価値向上による人財確保	スポーツや教育、食育などの文化活動を通じた社会貢献活動／介護事業を通じた持続可能な高齢社会の実現	P.35
S・G	公正で誠実な企業活動 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と正義をすべての人に 17 パートナシップで持続可能な社会を創る	自社およびサプライチェーン上のコンプライアンス違反(環境・人権問題)による信用低下	長期的な競争力の向上	コーポレート・ガバナンス体制／サステナビリティ推進体制の整備と維持／人権デューデリジェンスの運用／CSR調達の推進	P.33-40

指標と目標

長期ビジョン「CSV30」において5つの非財務目標を設定し、具体的な施策に取り組んでいます。

Scope1,2削減、男性育児休業取得率、有給休暇取得率の3つは、施策実施によって改善されました。Scope3削減、女性管理職比率の2つは、継続的に取り組む社内体制を整備しており、中長期的な施策を確実に実施することで、目標達成を目指します。

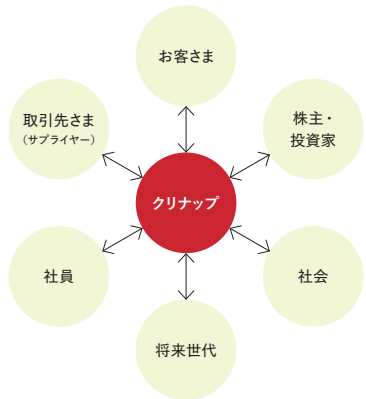
非財務目標に関する実績

非財務目標区分	対象	2023年度実績	2024年度実績	2030年度目標
Scope1,2 削減(2021年度比)	連結	21.6%減	31.7%減	42%減
Scope3* 削減(2021年度比)	連結	3.7%増	1.4%減	25%減
女性管理職比率	連結	3.8%	3.5%	15%
	単体	3.1%	3.1%	
男性育児休業取得率	連結	70.2%	75.0%	100%
	単体	71.2%	70.7%	
有給休暇取得率	連結	63.8%	66.7%	60%

*カテゴリ1および11を削減目標の対象としている

ステークホルダーとのかかわり

クリナップグループは、社会の一員として果たすべき役割と目的意識を明確に持ち、さまざまな接点を重要な機会ととらえてコミュニケーションを行っています。また、社会の未来を担う子どもたちを「将来世代」と位置づけ、重要なステークホルダーと認識し、教育および社会・文化活動に取り組んでいます。今後も、事業活動を通して多種多様な期待や要請に誠実に応え、ステークホルダーとの信頼関係と協働関係を築いていきます。



ステークホルダー		コミュニケーションの事例	事業活動への反映
お客さま	当社グループの製品・サービスを購入・利用されているお客さま	ショールーム、カスタマーセンター、愛用者カード、顧客満足度調査、各種展示会、工場見学 など	・安全で快適な製品・サービスの提供
取引先さま (サプライヤー)	製品の原材料調達先、お客さま宅に製品を設置する取付・設置業者	取引先さまとの対話、CSR調達によるコミュニケーション、グリーン調達アンケート調査 など	・対話やアンケートの結果を踏まえたCSR調達の推進 ・取引先さまの労働安全に配慮した製品の創出
株主・投資家	当社に出資してくださる株主および投資家	株主総会、決算説明会、IRミーティング など	・配当金による利益の還元 ・適正な会計処理と適時情報開示
社員	当社グループの事業に従事する国内外の社員	社員エンゲージメントサーベイ、職場ミーティング、人事アンケート、社内報、家族工場見学、内部通報制度 など	・働きやすい職場づくり ・人事制度の改善 ・多様性を尊重した社内風土の醸成
将来世代	社会の未来を担う子どもたち	未来キッチン イラストコンテスト、子ども料理教室、社会科工場見学 など	・将来世代の社会・文化活動を支援する取り組みの実践
社会	当社グループが所在する地域やその近隣の住民の皆さま、当社グループの事業に関心を寄せる外部有識者 など	食文化活動、クリ夫のパン屋、Dreamia Club(ドリーミアクラブ)運営、地域貢献活動(地域イベント協賛、清掃活動、献血など)、有識者との意見交換 など	・地域社会の活性化につながる取り組みの実践

主なステークホルダーエンゲージメントの実績

取引先さまとの情報交換会

全国でクリナップの商品を取付・設置またはアフターサービスを担っていただく取引先さまとの情報交換会を行っています。2024年度は、関西エリアで実施し、システムキッチン、システムバスルームの作業性や要望についてさまざまなご意見をいただきました。いただいたご意見の中から作業性向上を目的として、2025年2月にモデルチェンジしたシステムバスルーム(ラクヴィア)の壁パネルに工夫を加え改善しました。具体的には、位置決めや組立がスムーズに進められるように、壁パネルに目印を付ける加工を追加し、部品の正確な位置合わせや、組立作業の効率化を図りました。

また、毎年5月から7月にかけて、取付・設置会社・アフターサービス会社・現場確認会社を対象に、クリナップとクリナップテクノサービスとの合同で安全大会を開催しています。新年度の安全方針を共有するとともに各会社さまと情報交換を行っています。

今後も貴重なご意見を真摯に受け止め、信頼関係の構築を図るとともに、お客さまへお届けする商品／サービスの向上につなげていきます。



Topic 未来キッチンプロジェクト

クリナップは2023年に「未来キッチンプロジェクト」を始動し、「キッチンから心豊かな未来を創る」をテーマとするアクションを展開しています。

2024年3月に、循環ろ過機能を備えた可動式のモビリティキッチンを産学共同で開発し、同年9月、これを株式会社MUJI HOUSE主催のインフラゼロハウス*実証実験に提供しました。同実証では、給排水設備のない居室に導入したシンクユニットが手洗いや洗顔などに問題なく利用できることが立証されました。また2025年1月には、東京都練馬区の中学校で行われた防災イベントに、モビリティキッチンの他、異なる形態のろ過循環装置を提供し、避難所運営を想定した訓練を支援しました。参加した生徒・地域住民の皆さまからは好意的な声が多数挙がるなど、災害時にも活用できる次世代型キッチンの有用性を実感していただきました。

その他、全国の小学生を対象に未来のキッチンのイラストを募る「未来キッチン イラストコンテスト」を開催し、次代を担う子どもたちと一緒にキッチンの可能性を模索しています。そして、子どもたちに自身や地球の未来を考える機会としても役立ててもらっています。どの作品も創造力に満ちあふれ、見る人の心を動かす素晴らしい作品です。

これらの活動を通して、既存のシステムキッチンの枠を超えた新しい製品を生み出し、人々の心豊かな食住生活を後押ししていきます。

*温室効果ガスの排出や生活に必要なエネルギーコストの実質ゼロなどを実現する自由で自立した未来の住まいで、災害時の仮設住宅としての活用も見据えて設計

〈インフラゼロハウス実証実験への提供〉



循環ろ過機能を搭載したシンクユニットが宿泊者から高評価を獲得

〈地域防災イベントに提供〉



モビリティキッチンの実物展示・実演

Environment

クリナップグループ環境ビジョン2050(CEV50)

クリナップグループは、気候変動などの環境課題への対策を推進するため、「クリナップグループ環境ビジョン2050(CEV50)」を策定し、2050年カーボンニュートラル達成を目指しています。この中間目標として、Scope1^{*1}、Scope2^{*2}は、パリ協定に整合した、世界の気温上昇を産業革命前から1.5℃に抑えることを目指す「1.5℃水準」に目標を引き上げ、Scope3(カテゴリ1+11)^{*3}は、「2℃を十分に下回る(Well Below 2℃)水準」の目標を設定しています。

また、事業活動における環境負荷を低減するため、気候変動への対応、資源循環の推進、水資源の有効利用を目指した取り組みをグループ内に浸透させるとともに、環境活動をより一層、推進していきます。

^{*1} Scope1：燃料の使用や燃焼設備での燃焼に伴う直接排出

^{*2} Scope2：電気、熱、蒸気の導入に伴う間接排出

^{*3} Scope3：資材調達から製造、販売、廃棄までに伴うScope1、2以外の間接排出。カテゴリ1(購入した資材・サービスに伴う排出)とカテゴリ11(販売した製品の使用に伴う排出)の合計がScope3の9割以上を占めているため削減目標の対象としている

クリナップグループ環境ビジョン2050(CEV50)

「人と暮らしの未来を拓く」

クリナップグループは、2050年までに、カーボンニュートラルの達成と資源循環および水資源の有効利用に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

気候変動への対応

2050年 カーボンニュートラル(Scope1,2)

2030年	Scope1,2	温室効果ガス排出量	42%削減(2021年度比)*
	Scope3	温室効果ガス排出量	25%削減(2021年度比)

*2013年度比では60%削減に相当

資源循環の推進

- 製品の3R推進
- 持続可能な材料の使用

水資源の有効利用

- 製品の水使用量削減
- 事業活動における水使用量の削減

方針・マネジメント

環境方針

私たちクリナップグループは、企業理念『家族の笑顔を創ります』、CSV30(クリナップ サステナブルビジョン 2030)およびCEV50(クリナップグループ環境ビジョン2050)のもと、品質・環境マネジメントシステムを推進し、持続可能な社会を実現します。

1. 事業活動における温室効果ガス削減および廃棄物や水使用量削減などの環境負荷軽減を推進します。
2. 省エネや節水、省資源など環境に配慮した製品・サービスを提供します。
3. 環境法令などを遵守し、汚染の予防を図り、環境保全を行います。

(2025年4月1日)

ISO14001(環境マネジメントシステム)への取り組み

クリナップグループは、環境マネジメントシステムを構築し、すべての生産工場(関係会社を含む)やオフィス部門を中心に、ISO14001の認証を取得しています。

環境に関する全社的な意図および方向付けを示す環境方針を制定し、全社員に浸透させるとともに、各部門が方針に基づき環境活動を推進しています。また、PDCAサイクルに従い、事業活動へ展開して継続的改善に取り組んでいます。

環境教育

生産工場やオフィス部門では、環境保全活動の推進に向け、専門性や階層に応じて、人材の育成を行っています。2024年度は以下のカリキュラムを実施しました。

環境方針の浸透については生産部門では各事業所(工場)別に教育の場を設けて、教育を行っています。

環境教育受講者数

教育テーマ	単位	対象者	受講者数
内部環境監査員教育	名	新任管理者および新任担当者	21
新任ライン係長研修	名	新任ライン長および新任係長	11
新入社員教育(本社・いわき・岡山)	名	新入社員	134

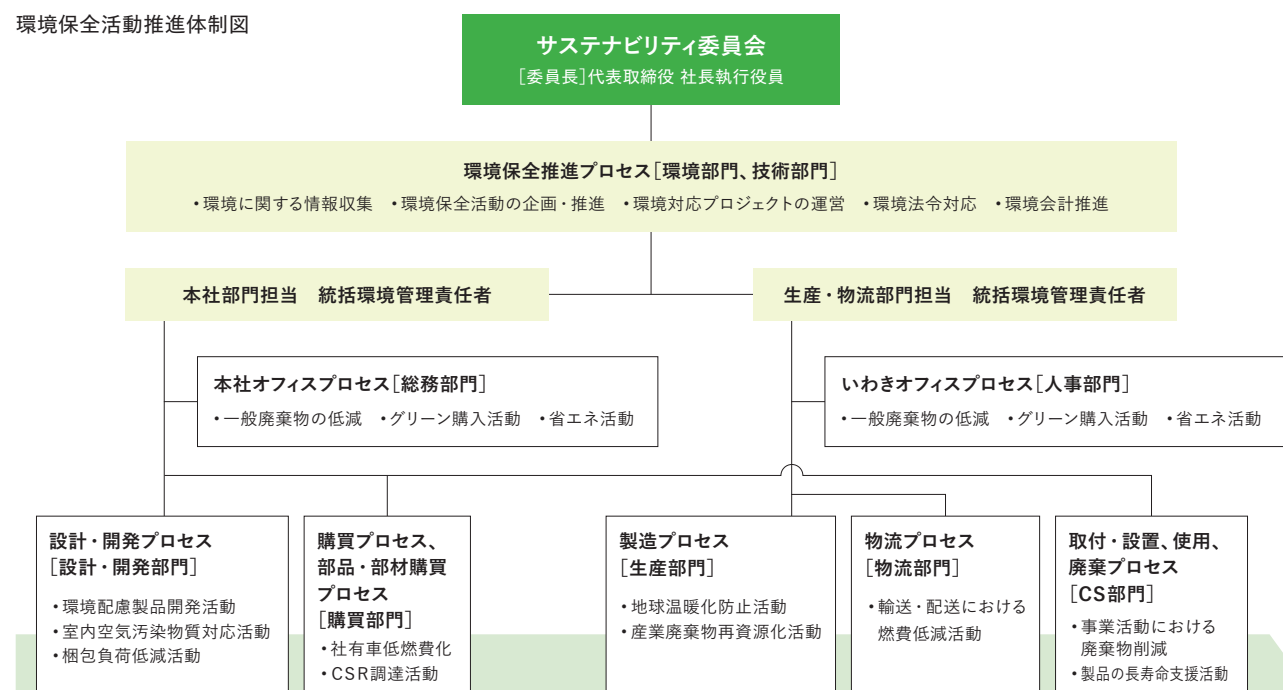


内部環境監査員教育

環境保全活動推進体制

クリナップグループの環境保全活動を含むサステナビリティに対する全社的な意思決定を担う会議体として「サステナビリティ委員会」を設置しています。当該委員会では、グループの環境ビジョンや環境保全活動の方向性、目標の検討・見直し、環境保全活動の進捗状況の確認のほか、さまざまな環境課題に関する審議を行っています。

環境保全活動推進体制図



サプライチェーン全体で環境負荷低減に注力



気候変動への対応

地球や企業活動に重大な影響を及ぼす気候変動は、クリナップグループの経営にとってリスクであると同時に、新たな事業機会をもたらすものと考え、環境課題の解決に向けた取り組みを推進するとともに、TCFD提言に基づく環境情報の開示拡充を行っています。

ガバナンス

代表取締役 社長執行役員を委員長とし、取締役および執行役員を中心とした委員で構成されるサステナビリティ委員会を設置、年5回の頻度で開催しています。気候変動対応や気候関連に関する施策や計画・目標の立案は委員会の下部組織である「環境分科会」にて協議・審議され、それら協議・審議事項の結果は委員会に報告されます。環境分科会は営業・開発・生産・調達を中心とした各部門および関係会社のメンバーで構成されています。

また、気候変動対応の施策内容や実施計画の進捗状況についてはサステナビリティ委員会で確認・審議された上で、取締役会へ年1回以上の頻度で答申がなされており、取締役会にて管理・監督を行っています。さらに、気候変動によるリスクは事業継続に重大な影響を及ぼすことから、リスクマネジメント委員会においても情報の共有を図り、連携をとりながら対応を進めています。

リスク管理

気候関連リスクをグループ全体の経営リスクの一つとして位置づけ、サステナビリティ委員会で審議、評価などの管

理をしています。気候関連リスクのなかで特に自然災害に起因する物理リスクへの対応に関しては、代表取締役 社長執行役員を委員長とするリスクマネジメント委員会の下部組織である「BCP／SCM 部会」とも情報を共有し、取り組みを進めています。

サステナビリティ委員会の下部組織である環境分科会において、事業にかかわる気候関連リスクおよび機会を抽出、「自社にとっての重要性」「発生の可能性」「ステークホルダーにとっての重要性」の3つの指標を元に評価し、重要なリスクおよび機会を特定しました。さらに特定されたリスクおよび機会が事業に与える影響などについて討議を行い、サステナビリティ委員会に報告しています。サステナビリティ委員会では内容の確認と審議を行った上で取締役会に答申され、管理・監督を行っています。

戦略

気候変動がクリナップグループの事業に及ぼす影響の把握とそのリスクおよび機会を具体的にとらえるために、1.5°Cシナリオ(気温上昇を1.5°Cに抑えるため環境政策が現状より強化されるシナリオ)および4°Cシナリオ(環境政策が強化されず気温が上昇し物理的影響が大きくなるシナリオ)を対象としたシナリオ分析を実施しています。それぞれのシナリオにおけるリスクと機会を特定し、環境施策の展開を進めています。なお、当社では、シナリオ分析を、NZE (Net Zero Emissions by 2050 Scenario)、Stated Policy Scenario (IEA World Energy Outlook 2024)、IPCC RCP8.5などの既存シナリオを参考に、実施しています。

気候関連リスクおよび機会

リスクと機会の種類			リスクと機会の概要	影響を受ける 場面	財務影響の程度		対応策
					1.5℃	4℃	
リスク	移行	政策規制	炭素税導入によるコストの増加	直接操業	中	小	・低炭素エネルギーへの代替 ・温室効果ガス削減につながる設備導入 ・省エネ活動の推進
		政策規制	炭素税の導入や温室効果ガス排出規制等により、原材料、部材、エネルギー等の調達コストが増加	直接操業 上流	大	小	・低炭素な部品・部材の採用 ・生産効率の向上
		技術	環境に配慮した技術・製品開発の遅れによる販売機会の損失	直接操業	中	小	・環境配慮製品開発の推進 ・取引先さまとの協業推進 ・産学共同開発の推進
	物理	急性	台風や洪水等による自社工場とサプライチェーンの被災による販売機会損失	直接操業 上流	小	中	・BCP体制の拡大推進 ・サプライチェーンの強靱化推進
機会	製品およびサービス	気候関連の社会ニーズ拡大による環境に配慮した製品の需要増加 ・省エネ、節水製品、環境負荷の少ない材料を採用した製品の需要増加	下流	中	小	・環境配慮商品開発の推進 ・取引先さまとの協業推進 ・産学共同開発の推進	
	市場	資源循環市場の拡大による3Rに対応した高耐久製品の需要増加 ・リサイクルが容易で高耐久なステンレス製品の需要が増加	下流	中	小	・製品の3R推進 ・持続可能な材料の使用	

指標と目標

2023年度に「クリナップグループ環境ビジョン2050 (CEV50)」で掲げたカーボンニュートラル達成に向け、その中間目標となる2030年度の温室効果ガス (GHG) *¹ 排出量削減目標を設定しています。

GHG排出削減目標

2050年度	カーボンニュートラル	
Scope1,2		
2030年度	42%削減 (2021年度比)	
Scope1,2		
Scope3* ²	25%削減 (2021年度比)	

*1「Greenhouse Gas」の略称

*2 カテゴリ1および11を削減目標の対象としている

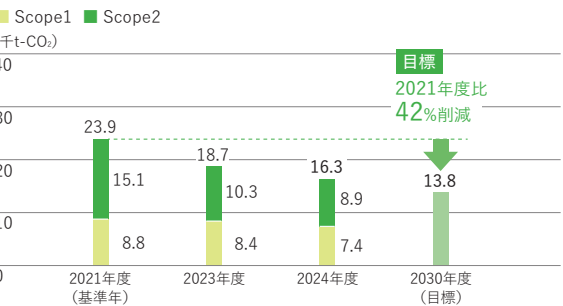
なお、この目標はSBT (SCIENCE BASED TARGETS) イニシアチブから「科学的根拠に基づいた目標」として2023年に認定されています。



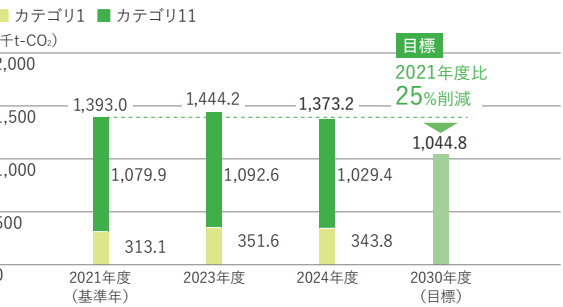
GHG排出量の推移

クリナップグループの2024年度GHG排出量 (Scope1,2 合計) は、再生可能エネルギー導入や省エネ活動などにより前年度比12.9%削減となりました。この結果、2021年度比では31.7%削減となりました。Scope3 (カテゴリ1+11) については、製品販売数の減少などにより前年度比4.9%削減となりました。

Scope1,2の推移



Scope3 (カテゴリ1+11)の推移



GHG排出量 (千t-CO₂)

スコープ	概要	排出量		
		2022年度	2023年度	2024年度
Scope1	直接排出	9.0	8.4	7.4
Scope2 (マーケット基準)	電気・熱・蒸気の導入に伴う間接排出	10.8	10.3	8.9
Scope1,2合計		19.8	18.7	16.3
Scope3	Scope1,2以外の間接排出	1,493.4	1,501.0	1,416.4
カテゴリ1	購入した製品・サービス	346.3	351.6	343.8
カテゴリ2	資本財	12.3	28.4	18.5
カテゴリ3	エネルギー関連活動	3.4	3.2	2.9
カテゴリ4	輸送、配送 (上流)	6.1	6.5	5.5
カテゴリ5	廃棄物	2.3	2.4	2.4
カテゴリ6	出張	0.5	0.5	0.5
カテゴリ7	従業員の通勤	1.1	1.4	1.3
カテゴリ8	リース資産 (上流)	算定対象外		
カテゴリ9	輸送、配送 (下流)	1.5	1.5	1.4
カテゴリ10	販売した製品の加工	算定対象外		
カテゴリ11	販売した製品の使用	1,105.4	1,092.6	1,029.4
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	14.4	13.0	10.6
カテゴリ13	リース資産 (下流)	0.1	0.1	0.1
カテゴリ14	フランチャイズ	算定対象外		
カテゴリ15	投資	算定対象外		

対象範囲：クリナップグループ

GHG排出量削減の取り組み

クリナップグループは、サステナビリティ委員会の下部組織である環境分科会が中心となり、GHG排出量削減目標の達成に向けた具体的な行動計画を検討しています。Scope1,2に対しては、再生可能エネルギーや低炭素エネルギーへの転換を進めるとともに、省エネ設備への更新や省エネ活動による削減を推進しています。一方、Scope3の削減に向けてはサプライヤーとの協働が不可欠となります。削減に向けた行動計画やプロセスを検討するとともに、取引先さま (サプライヤー) との協働によるGHG排出量削減を働きかけていきます。

電力消費量の推移

		単位	2022年度	2023年度	2024年度
非再生可能エネルギー由来電力消費量	購入	GWh	22.3	21.8	20.6
	自家発電	GWh	0.2	0.3	0.8
電力消費量合計		GWh	32.2	31.6	30.5
電力再生可能エネルギー比率*		%	31	31	32

対象範囲：クリナップグループ

*再生可能エネルギー由来電力消費量 (購入、自家発電) / 電力消費量合計



再生可能エネルギー導入

〈太陽光の自家発電〉

クリナップグループは、主にエネルギー消費が多い生産部門における太陽光発電設備の設置に取り組んでいます。2022年度の湯本工場への設置、2023年度の岡山工場への設置に続き、2024年度は津山工場に設置しました。3工場での導入により、2024年度は404t-CO₂の削減効果がありました。



工場に設置した太陽光発電設備(左：岡山工場、右：津山工場)

〈再生可能エネルギー由来の電力購入〉

クリナップグループのいわき地区の生産部門と関係会社は2022年4月より購入電力の50%を再生可能エネルギー由来の電力に切り換え、2024年度は3,642t-CO₂の削減効果がありました。

LNG(液化天然ガス)への燃料転換

クリナップグループは、化石燃料の消費が多い生産部門において、GHG排出の少ないLNGへの転換を推進しています。

2023年度は、クレート工場でボイラーの燃料をLPGからLNGへ転換し、2024年度は、鹿島システム工場でボイラーと空調の燃料をA重油からLNGに転換しました。これによって2024年度は559t-CO₂の削減効果がありました。



LNG用ボイラー
(クレート工場)

LNG用空調設備
(鹿島システム工場)

ハイブリッド自動車の導入

クリナップグループは、2023年5月より営業用社用車にハイブリッド自動車の導入を開始しました。2024年度末の営業車両のハイブリッド自動車比率は約54%となっています。2027年度末までに全営業用社用車の約70%をガソリン車からハイブリッド自動車に入れ替える当初の計画に対して、2027年度末時点での見込み値を約90%に上方修正しました。これにより、年間で約250t-CO₂のGHG削減効果が見込まれます。

2050年カーボンニュートラルに向けて、営業車に求められる航続距離、社外充電スポット利用における待機時間などの実用性を確認した上で、電気自動車の導入も検討していきます。

物流部門における取り組み

クリナップグループの物流を担うクリナップロジスティクス株式会社では、GHG排出削減に向けて社員へのエコドライブ教育のほか、輸送協力会社の意識向上に取り組んでいます。エコドライブの基本である「穏やかな発進と加速」などを徹底し、輸送協力会社とともに推進しています。

省エネ推進活動

省エネパトロールは、各工場の製造ラインを定期的に巡回し、エアー漏れや照明の設置状況、生産設備および冷暖房設備などをチェックし、省エネ改善を促す活動です。

2024年度は12回実施し、年間約7.8t-CO₂の削減効果がありました。

製品を通じたGHG削減

クリナップグループは、材料等を調達する過程や製品使用時において、GHG削減(Scope3)に貢献する製品を開発、提供しています。

〈システムバスルーム「SELEVIA」の軽量化〉

2024年発売のシステムバスルーム「SELEVIA」は、主要部材を軽量化することで、旧製品と比較して総重量を約10%削減*しました。これにより製品の材料等を調達する過程で発生するCO₂排出量を約10%削減*します。

*当社のSELEVIA1616標準セットと旧製品アクリアバス1616標準セットを比較した場合の数値



SELEVIA

〈洗エールレンジフードの省エネ運転〉

「調理センサー」は調理物の温度を検知し、自動的に換気風量を切り替えて省エネ運転を行います。一般的なシロッコファンのレンジフードと比べると省エネモーターの効果も含めて、最大で約83%*のCO₂排出量を削減します。

*メーカー調べによる(標準的な4名家族世帯の1週間の標準的な料理メニューを1品ずつ調理した場合のデータ)。一般的なシロッコファンレンジフードはACモーター搭載、50Hz時、加熱料理機器はIHクッキングヒーターを使用した場合の数値



センサーの検知範囲

資源循環の推進

クリナップグループは、資源循環の推進を重要課題の一つとして掲げ、持続可能な材料の使用や製品の3R推進を推し進めています。

廃棄物削減の取り組み

クリナップグループの生産部門では、ゼロエミッション*¹に向けて取り組んでいます。

2024年度の生産部門における廃棄物総排出量は、前年度から74トン減の8,995トンとなりました。一部のプラスチックや木材の有価物化を実施したことが減少要因です。

廃棄物の内訳は、木くずが88%、廃プラスチック類が7%、残り6%をその他の廃棄物*²が占めています。

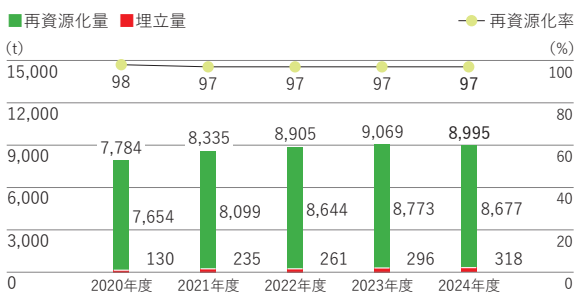
廃棄物の大部分を占める木くずの再資源化を重点的に取り組んでおり、再資源化率は100%です。しかしながら、廃プラスチック類とその他の廃棄物の再資源化率が低いため平均再資源化率は97%になりました。

*1 環境負荷を低減するために廃棄物を再資源率99%以上にする
*2 ガラス・陶磁器くず、金属混合物、廃油、汚泥など

再資源化の課題

埋立処分量は、廃棄物の再生が難しいガラス材料を加工する際に発生する汚泥が増えるなどの要因で前年度から22トン増加しました。汚泥の再資源化は難しく、減量化や再資源化ができる業者との連携が今後の課題です。

廃棄物総排出量と再資源化率



再資源化率の内訳

		単位	2022年度	2023年度	2024年度
木くず	廃棄物排出量	t	7,967	8,062	7,868
	再資源化率	%	100	100	100
廃プラ	廃棄物排出量	t	612	632	637
	再資源化率	%	94	95	84
その他	廃棄物排出量	t	326	376	490
	再資源化率	%	30	30	56

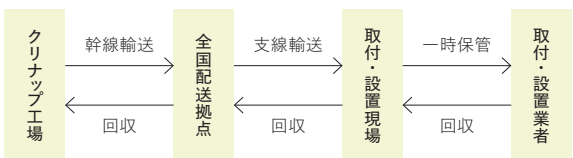
※各処分量は、マニフェストより算出

製品梱包の環境負荷低減

省資源への取り組み「リターナブル梱包」

システムキッチンワークトップ梱包には、一般的に使い捨てのダンボールが使用されます。クリナップグループは製品保護のための梱包材において、繰り返し使えるリターナブル梱包を導入し、ダンボール梱包削減に取り組んでいます。リターナブル梱包の定期的な購入によりリターナブル梱包出荷率の向上を図るとともに、リターナブル梱包を電子管理することで、未回収の防止および回収率の向上を実現し、円滑な運用を行っています。

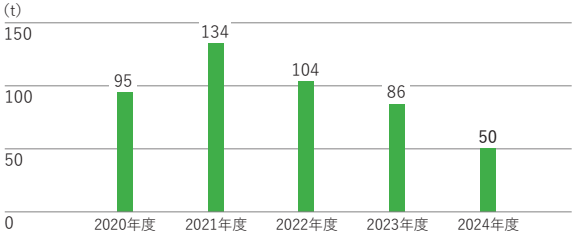
「リターナブル梱包」回収の仕組み



出荷時のリターナブル梱包

回収時のリターナブル梱包は
清掃して再出荷

「リターナブル梱包」によるダンボール梱包削減量推移



2024年度の活動

活動	出荷率(%)	回収率(%)	削減量(t)
リターナブル梱包	25	98.5	50

省資源への取り組み「シュリンク梱包」

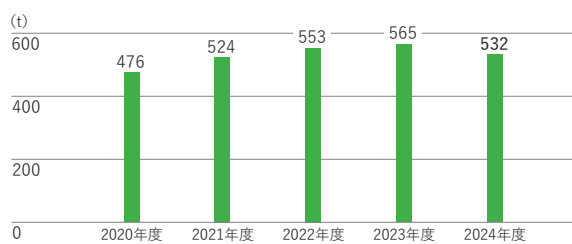
キッチン壁パネルを透明フィルムで覆い、シュリンク梱包機に通して加熱するとフィルムが縮んで製品を密封加工します。シュリンク梱包によりダンボール削減活動を行っています。



キッチン壁パネルのシュリンク梱包



「シュリンク梱包」によるダンボール梱包削減量推移



キッチンキャビリサイクルプログラム

クリナップでは、「未来キッチンプロジェクト*」の一環として、リサイクル率の高いステンレスキャビネットキッチンへの買い替え支援プログラム「キッチンキャビリサイクルプログラム」を2023年4月から開始しました。当プログラムは、当社の会員制リフォームネットワーク「水まわり工房」の加盟店(リフォームショップ、工務店、販売店など)を通じて、キッチンのリフォーム時に廃棄される旧キッチンのリサイクル事業者への引き渡しを促進します。クリナップは、加盟店との協働によって、地域のリフォーム活性化と地球環境の保護に努めていきます。

*未来キッチンプロジェクトの概要はP.14をご参照ください

水資源の有効利用

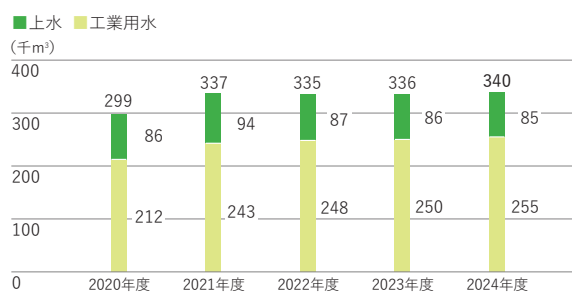
クリナップグループは、水回りの製品を多く提供しています。製造から製品の使用に至るまでのプロセスにおいて、限りある水資源を有効利用*できるよう努めることが持続可能な社会の実現につながるという考えのもと、重要課題の一つとしています。

*水資源の有効利用につながる製品の概要はP.24をご参照ください

事業活動における水使用量の推移

クリナップグループの生産部門における水使用量(上水および工業用水)は、2024年度は生産品目の増加などによる影響により、前年度比1.2%増加となりました。

水使用量の推移

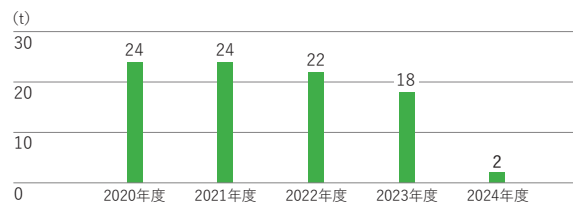


化学物質に対する取り組み

室内空気汚染物質

シックハウス症候群の原因になる室内空気汚染物質は、トルエン、キシレン、スチレン、ホルムアルデヒド、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、エチルベンゼンなどです。クリナップの製造プロセスでは、新製品導入に伴い、室内空気汚染物質削減に努め、2024年度は2.4トンまで減少しています。今後もグループ全体で代替物質への転換、対象物質の使用量削減に取り組んでいきます。

室内空気汚染物質取扱量



取扱量削減への課題

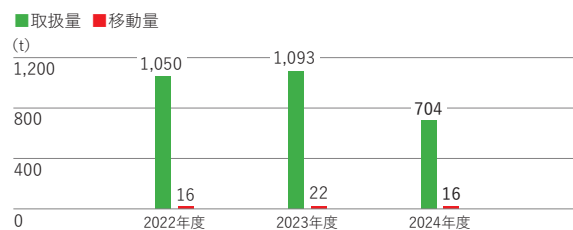
接着剤に含有されている溶剤や樹脂の可塑剤が主な取扱量削減を検討すべき対象となっています。

品質・機能・価格を満足した代替品への転換、対象物質の使用削減に取り組んでいきます。

PRTR指定化学物質

人の健康、生態系に有害な影響を与えるおそれのあるPRTR指定化学物質の取扱量および移動量を把握し、監督官庁に届出を行っています。

PRTR取扱量・移動量



周辺環境への配慮

製造工場の周辺環境へ環境負荷の高い有害物質が排出されないよう、関連法令に基づき有害物質などの適切な管理、処理を行っています。

また、クリナップグループにおいては2024年度に環境法令への違反はありませんでした。



社会課題解決につながる製品・サービスの創出

座卓という家族の団らんを象徴する製品から始まったクリナップは、お客さまの声に耳を傾け、キッチンを主軸に食住空間の提案をする住宅設備機器メーカーとして「暮らし価値」を創造していくことを自らの役割ととらえています。また、お客さまの感動や驚きは、お客さま自身も気がついていない困りごとを探り出し、解決策を具現化させるところから生まれるという考えのもと、「クリナップらしさ」にこだわった製品開発を進めています。

2022年には、「SDGs視点の製品・サービス指針」を策定。中長期の研究開発テーマを設定し、指針に基づく個別の指標と連動した先行開発などを行っています。今後も、社会課題の解決につながる製品・サービスの創出を推進していきます。



新「STEDIA」

SDGs視点の製品・サービス指針

クリナップセーフティ

～安全で清潔、健康的な暮らし～

1. 全ての人にとって安全な住空間を提供します。
2. 清潔で健康的な暮らしに貢献する製品を提供します。
3. 安全な暮らしを支える技術を向上します。

クリナップライフサイクル

～持続可能な環境保全～

1. 製品のライフサイクルで環境汚染を防止します。
2. 地球資源を有効に活用します。
3. 省エネや節水などによってCO₂排出を削減します。

クリナップコンフォート

～人とつながる心地よい暮らし～

1. 全ての人にとって心地よい住空間を提供します。
2. 生活スタイルの変化に対応する製品とサービスを提供します。
3. 人とのつながりを醸成する製品とサービスを提供します。

SDGs視点のモノづくり

クリナップは、家族の笑顔を創ることをモットーに、SDGsに近い考え方で時代や社会に求められる製品を世に送り出してきました。今後は、多様化するお客さまの新しいニーズに対応していくため、SDGs視点で製品やサービスを評価・開発していくことがより重要になると考えています。「SDGs視点の製品・サービス指針」はその「ものさし」として、クリナップのモノづくりに活かしていきます。

クリナップセーフティ

安全・清潔は、クリナップの商品に必要な要素であり、さらに進化させていくための指針です。キッチンのシンクやワークトップに採用している親水性コーティング(美コート)や自動洗浄など、当社独自の技術を進化させ、さまざまな部材へ展開していきます。

クリナップライフサイクル

製品素材の選定から使用後の廃棄やリサイクルまで、トータルで環境負荷に配慮するための指針です。



クリナップは以前からこの思想を基に開発を行ってきました。2011年、主力キッチンのキャビネットを木製からステンレス製に変更した際に、設計段階からリサイクルを考慮し、レールなどの部品を簡単に取り外せるよう、ネジを可能な限り使わない易解体設計を導入しています。

今後はリサイクルに加えて、製品の軽量化や省エネ・節水に貢献するアイテムの開発などを進めていきます。

クリナップコンフォート

将来の製品開発においてキーワードとなる指針です。指針作成を目的にした若手社員によるワークショップでは、デジタル社会だからこそ実際に人と会うこと、人とのつながりを大切にしたいという声があがり、指針に加えられました。2023年には、「未来キッチンプロジェクト*」が始動し、その一環として次世代キッチンに向けたプロトタイプの研究開発と将来ニーズの探索を進めています。

*「未来キッチンプロジェクト」の概要はP.14をご参照ください

新「STEDIA」 SDGs視点の新たな提案

2025年9月、「STEDIA(ステディア)」をリニューアルして発売を開始しました。新「STEDIA」では木の心地よさ(クリナップコンフォート)や環境への配慮(クリナップライフサイクル)、水回りを清潔に保つ(クリナップセーフティ)など、「SDGs視点の製品・サービス指針」に沿った新たな提案を行っています。

木の心地よさを伝える「天然木ワークトップ」

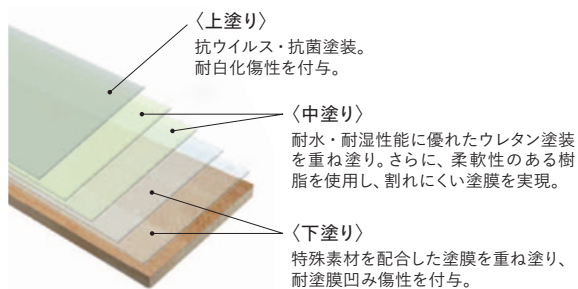
キッチンの印象を大きく左右するワークトップに、家具材として人気のオークとウォールナットの挽き板を採用しました。従来の均一性重視から天然木の多様性を個性とした提案をしています。天然木の節目の入った部分や木目の自然なばらつきを取り入れたデザインは、人工物にはない人を落ち着かせる効果があるといわれています。キッチンでの実用性を維持しながら、木の心地よさを感じていただける製品です。

環境への配慮

意匠面には天然木の挽き板を使い、中心部分に植林木を使用することで軽量化と強度を担保しています。また、クリーンウッド法(合法的に伐採された木材などの流通を促進する法律)を遵守し、森林保全と生物多様性に配慮しています。

耐久・耐水性と清潔さ

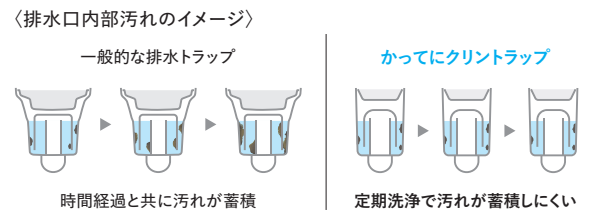
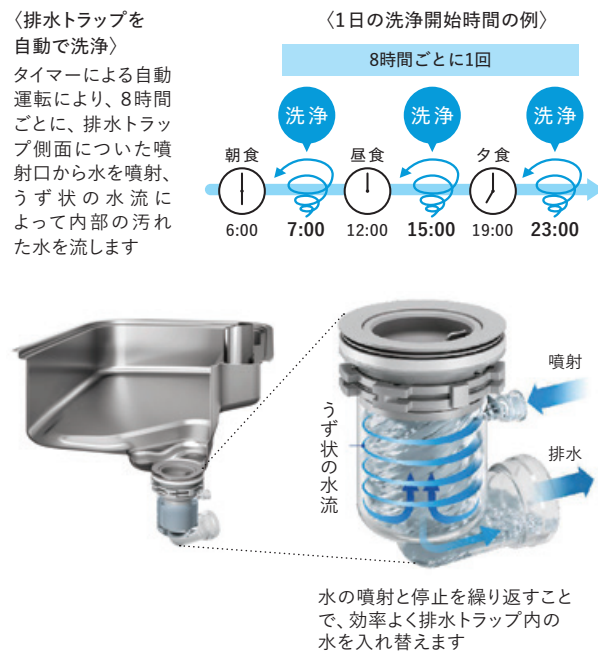
ワークトップの表面と木口面は水の浸透を抑え衝撃をやわらげる中塗りを含め、5層から最大7層の塗装で耐久性と耐水性を上げています。塗膜はSIAA(抗菌製品技術協議会)が認証する抗ウイルス・抗菌性能など5つの衛生性能に適合しており、汚れが付着しても水拭きやアルコール拭きでほとんどの汚れを落とすことができます。



天然木ワークトップ、シェルフ、ライフテーブルが創り出す明るくてぬくもりのある新「STEDIA」

清潔に保つ「かってにクリントラップ」

排水トラップの掃除は面倒に感じる家事のひとつです。ぬめりや悪臭の原因になるなど、放置するとさまざまな問題が発生する汚れを、自動洗浄によって抑制する新しいトラップを開発しました。8時間ごとにトラップ内に水が噴射され、封水と呼ばれるトラップ内の水を自動的に入れ替える機能によって、汚れの付着を軽減することでお手入れの負担を減らし、快適な生活環境の維持に寄与します。



STEDIA
<https://cleanup.jp/kitchen/stedia/>

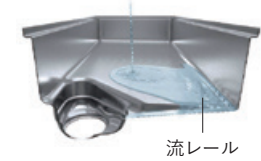
清潔・健康に配慮した製品

清潔・健康に配慮した製品を提供することで、心地よい暮らしに貢献します。

清潔を保つ「流レールシンク」と美コート

「流レールシンク」は、調理中の野菜洗いや、後片付け時の食器洗いの水の力でシンク内のゴミを「流レール」に集め、排水口に向けて流すシンクで、調理中からシンクをキレイに保つことができます。

また、ステンレスのワークトップ、シンクに採用している親水性コーティング(美コート)は、油污れや水あかなどの落ちにくい汚れも落としやすくして、キッチンを清潔に保ちます。



健康に配慮した「Hotウォール」

浴室における事故の大きな要因として、ヒートショックがあげられます。室内空間の急激な温度変化による血圧の急変動で起こるヒートショックは、特に冬場に増加する傾向にあります。パネル型壁付け暖房機「Hotウォール」は、居室と脱衣所・浴室の温度差を解消できる製品です。18mmにまで厚みを抑えたスリムな外観と、ふく射熱による安全性により、狭い場所でも安心して使えるものです。



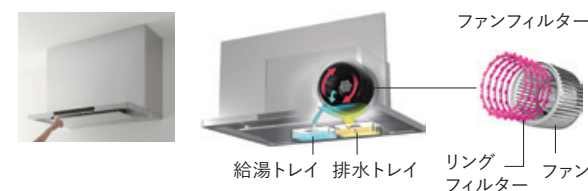
環境に配慮した製品

地球資源に配慮した製品を提供することで、地球環境と共生する持続可能な暮らしに貢献します。

水資源節約に貢献する「洗エールレンジフード」

「洗エールレンジフード」の自動洗浄では、レンジフードのフィルター油汚れを約9割*1落とすことができます。また、手洗いと比べて水の使用量を約99%削減*2することができます。

*1 当社試験条件による
*2 当社検証比(月に一度手洗いをした場合と2か月に一度洗エールレンジフードの自動洗浄を行った場合の実験データ)



洗エールレンジフード
<https://cleanup.jp/online-showroom/centro/rangehood/araeru/>

「SELEVIA」の省エネ、節水につながる機能

2024年発売のシステムバスルーム「SELEVIA」は、高い保温性や節水・節湯など、省エネにつながる機能をもったアイテムによって、CO₂排出量の削減に貢献することができます。

浴室まるごと保温

浴室全体を保温材で覆うことで、冬場の入浴でも冷めにくく、快適な環境を省エネでキープします



高断熱浴槽

浴槽の保温材と断熱性の高い風呂フタによって、お湯が冷めにくく、追い炊きを減らすことができます



半身浴ラグーン浴槽

少ないお湯でも温まれる半身浴槽で、お湯の使用量を減らすことができます



シルクベールシャワー

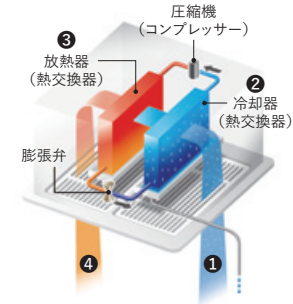
水圧を保ちながら、節水できるシャワーヘッドで、水の使用量を抑えることができます



省エネで一年中快適な浴室を実現「乾爽!除湿ファン」

従来のヒーター式の換気乾燥暖房機とは異なり、ヒートポンプ式を採用することで「除湿乾燥」「冷やす」「温める」がこの機器一台で可能になり、浴室空間が新たな心地よい空間になります。

除湿して乾燥させることにより、一般的な換気乾燥暖房機よりも、すばやく*1衣類や浴室を乾燥できます。さらにヒーターを使わないヒートポンプ式により省エネ性能に優れ、CO₂排出量を約62%*2削減します。



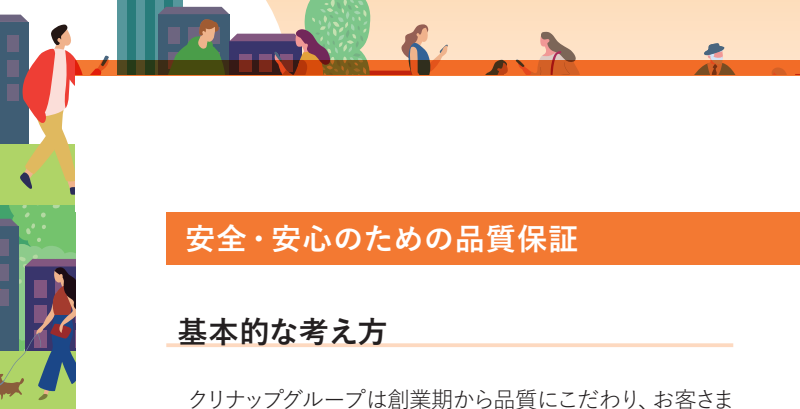
- 〈除湿乾燥の仕組み〉
- ① 浴室内の湿った空気を本体に取り込みます
 - ② 取り込んだ空気を冷却器で結露させて除湿します
 - ③ 除湿されて乾いた空気を放熱器で暖めます
 - ④ 暖めた空気を浴室内に送風します
 - ⑤ ①～④を繰り返すことで浴室内の湿度を低下させ、衣類や浴室を乾燥させます

*1 諸条件によっては一般的な換気乾燥機よりも乾燥に時間がかかる場合があります
*2 メーカー試験条件：28℃ 60% 浴室サイズ1620、衣類重量6kg(4人家族想定)、一般的な換気乾燥暖房機と比較した場合



除湿乾燥の様子

乾爽!除湿ファン
<https://cleanup.jp/online-showroom/selevia/ventilation/ventilations02/>



安全・安心のための品質保証

基本的な考え方

クリナップグループは創業期から品質にこだわり、お客さまの安全と健康を第一に考え、感動していただける製品・サービスの提供に努めています。品質方針および製品安全自主行動指針に基づき、製品に限らず、営業や物流、取付・設置やアフターサービスなどサプライチェーン全体で、お客さまに満足していただけるようトータル品質の向上にも力を入れています。

品質方針

私たちクリナップグループは、企業理念『家族の笑顔を創ります』、CSV30(クリナップ サステナブルビジョン 2030)およびCEV50(クリナップグループ環境ビジョン2050)のもと、品質・環境マネジメントシステムを推進し、持続可能な社会を実現します。

1. お客さまの安全を第一に考え、高品質で快適な暮らしに貢献する製品・サービスを提供します。
2. お客さまの声を積極的に品質に反映して、お客さま満足度の向上に努めます。
3. 法令、規制要求事項を遵守します。

(2025年4月1日)

製品安全を確保するための行動指針

お客さまが安全・安心に使える製品・サービスを提供する

お客さまのサポート

クリナップグループが提供する製品・サービスは、長期間にわたり使用される特性上、お客さまへの購入後のサポート体制やチャネルの充実に注力しています。

20年サポートプログラム「スマイル20」

お客さまが「歓び」「笑顔」を実現するためのお手伝いをさせていただくというクリナップにおけるアフターサービスの基本的な考え方に基づき、快適な使い勝手や機能を長期にわたり維持する20年サポートプログラム「スマイル 20」を用意しています。このプログラムでは商品の機能・性能を維持するためのメンテナンス情報の提供と併せて必要なサポート体制を整えています。



 20年サポートプログラム
https://cleanup.jp/smile20/20y_support.php

ため、「クリナップグループ製品安全自主行動指針」に則り製品安全の確保に取り組んでいます。安全に関する法令や安全基準の遵守はもとより、製品開発・設計、製造、検査、原材料の調達、取付・設置および修理、事故発生時の苦情受付、製品回収の対応について社内規程を定めています。

重大製品事故発生時の対応

重大製品事故が発生した場合には、お客さまの安全確保を最優先とし、必要な場合には製品回収などの処置を実施します。また、社内の品質保証体制に則り、製品事故などの情報を関係部署へフィードバックし、製品の改良、警告ラベル、取扱説明書の改訂、ならびに取付・設置および修理方法の見直しを行うことにより、継続的に製品事故などの再発防止に努めます。

 クリナップグループ製品安全自主行動指針
https://cleanup.jp/policy/privacy_indicate.shtml

ISO9001(品質マネジメントシステム)への取り組み

クリナップグループは、ISO9001に基づく品質保証体制を認証事業所ごとに整備し、お客さまに安全かつ安心してご使用いただける製品・サービスの提供に取り組んでいます。クリナップ、クリナップロジスティクス株式会社(物流関係)、クリナップテクノサービス株式会社(取付・設置、アフターサービス関係)はISO9001認証を取得しています。

延長保証制度「クリナップスマイル会員」

延長保証制度「クリナップスマイル会員」は、スマイル20の通常サポートに加えて、さらに充実したサービスをご提供する有料サポートプログラムです。単なる延長修理保証だけでなく定期点検も含めたプランなど、お客さまに合わせた3つのプランをご用意。安心、快適なスマイルライフをサポートします。また、「クリナップスマイル会員」のセレクトプラン、スタンダードプランの方には、暮らしや食にまつわる有益な情報をお届けする生活情報誌「365c.」を定期的に無料でお届けしています。



生活情報誌「365c.」

「クリナップスマイル会員」3つのプラン

プランの種類	種類
ライトプラン	延長修理保証のみのプラン 本体10年／機器6年のほか計3コースあります
セレクトプラン	延長修理保証と定期点検サービスのご希望コースが選べます
スタンダードプラン	5年間の延長修理保証と5年ごとの定期点検サービスの固定プランです

 クリナップスマイル会員制度
https://cleanup.jp/smile20/cleanup_smile.php

SNSによるサポート情報の充実

kitchen trip(キッチントリップ)は、キッチンを使い始めの約1年間、お客さまに寄り添いながら、「キッチンを楽しむ」をコンセプトとした使い始めをサポートする公式 LINE サービスです。

使い方やお手入れ方法など、使い始めの疑問にお答えするコンテンツ、使用開始日や商品シリーズに合った情報のお届けのほか、お客さまが参加できる投稿企画やイベントなどを定期的に開催するなど、使い始めのサポートを充実させています。

お客さまとのコミュニケーション

クリナップが初のショールームを1970年に東京・飯田橋に開設して以来、半世紀以上の時が経過しましたが、お客さまとの接点であるショールームを重視する姿勢は一貫しています。

クリナップはショールームを「暮らし方情報発信拠点」と位置づけており、商品や食に関する情報に精通したショールームアドバイザーがお客さまの暮らしの課題・問題に日々お応えし、快適な暮らしを叶える商品をご提案します。現在、ショールームは日本全国に約100カ所となっています。

予約不要でアドバイザーとつながる「ちょこっとオンライン相談」

ショールームに予約なしでご来場された際に、混雑状況によりアドバイザーがご対応できないケースがあります。

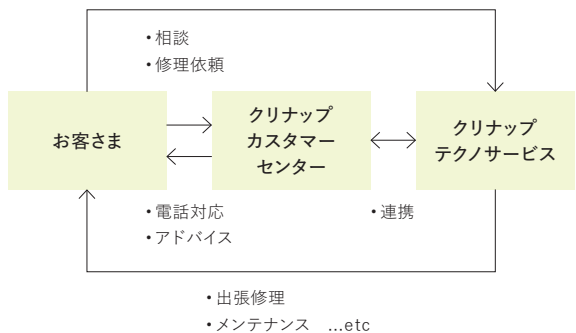
お客さまとのコミュニケーションロスを極力減らすため、全国に4箇所ある旗艦ショールーム“キッチンタウン”を含む一部のショールームにおいて、「ちょこっとオンライン相談」を実施しています。



クリナップのお客さま総合窓口とアフターサービス体制

クリナップグループのアフターサービスは、お客さま総合窓口のカスタマーセンターと、全国7カ所に取付・設置およびアフターサービスを担当するテクノセンターを有するクリナップテクノサービスとの連携により、質の高い充実したアフターサービスを提供しています。

また、お客さまから毎年数十万件の情報が寄せられるカスタマーセンターでは、大事な「お客さまの声」を分析し、製品・サービスの企画に反映し、お客さま満足度の向上に努めています。



「ちょこっとオンライン相談」は、予約なしで店頭モニターもしくはスマホから簡単にアクセスでき、遠隔地にいるアドバイザーとリアルタイムで対話できるシステムで、商品を見ながら「ちょっと聞きたい!」を解決できます。

お客さまとのコミュニケーションツール「リテスマアプリ」

クリナップが運営するリフォーム工事部門の“リテール営業部”では、工事を行っていただいたお客さまを対象に、「リテスマアプリ」の利用を促進しています。

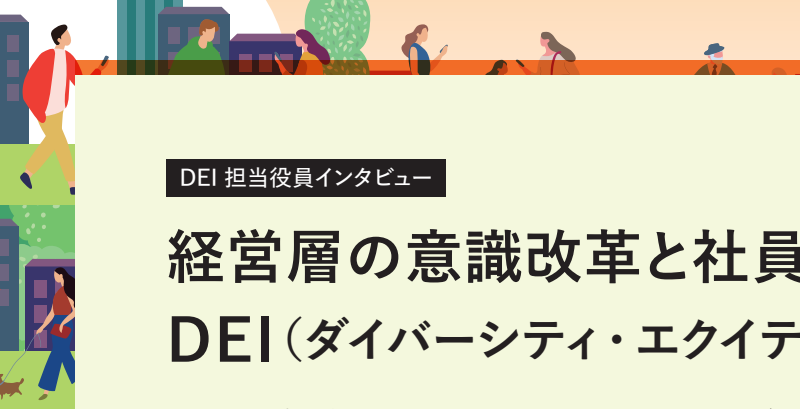
アプリでは、「お得なキャンペーン・イベント情報」や「定期点検のお知らせ」といった配信に加え、整理収納サービス／リフォームのご相談やお見積り／クリーニングサービスなど、さまざまなサービスをスマートフォンの中で一元管理できます。

お客さまとダイレクトにつながり、満足を越えた感動のアフターサポートを実現しています。



リテスマアプリ

リテスマ | クリナップリテールスマイルネットワーク



DEI 担当役員インタビュー

経営層の意識改革と社員の自分ごとから始める DEI (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)

クリナップのダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(以下、DEI)推進は、2024年度の社内プロジェクト発足から始まり、2025年5月の「Cleanup DEI Statement」公表を機に取り組みが本格化しました。その責任者でもある井上 泰延 取締役役に、DEI推進の目的と今後の取り組みを聞きました。

Q. DEIを推進する目的は？

A. DEIを改めて推進するきっかけとなったのは、人口減少に伴う労働力確保が出発点でした。国内の労働者数は2030年に640万人を超える働き手が不足すると予測*されています。人材不足に対応するためには多様な人材が活き活きと活躍できる会社にならなければならないと考え、2024年度に「DEI推進プロジェクト」を立ち上げました。それとは別に、2023年度に当社グループ全社員を対象としたキャリアアンケートを実施したところ、実に7割が「将来のキャリアについて上司に相談したことがない」という結果でした。近年、職場での世代間コミュニケーションが難しくなっているといわれていますが、マネジメント職は本来、社員が何でも言える雰囲気を作る役割を担っているはずです。社員が上司に気軽に相談できない状況が続けば、ハラスメントやコンプライアンス違反を起こし、ひいては企業不祥事につながりかねません。この懸念を解消するために、マネジメント層を含め、改めて組織全体の意識を変える必要があると認識しました。「Cleanup DEI Statement」は、それを実現するための人事戦略と位置づけています。

この「Cleanup DEI Statement」のビジョンには「ホンネを伝え、認め合い、多様な一人ひとりが輝く」と記しています。とすると、意見や考え方が異なった際、相手の人

*出典：パーソル総合研究所「労働市場の未来推計2030」



DEI担当 取締役 井上 泰延

格まで批判してしまう人がいますが、考え方はそれぞれで人格とは切り離してとらえるべきです。そうしてお互いが尊重されホンネで言いたいことが言えるインクルーシブ(包括的)な風土の実現を目指しています。

よくDEI推進の目的はイノベーションを起こすことにあると言われますが、ホンネで議論することが多様な価値観の対話の出発点であり、そうした対話が自然にあって初めてイ

ノベーションを促す風土になると考えています。

そのためには、ホンネで話し合えるような関係を築くことが必要ですが、それを阻害する要因のひとつに役職で呼び合うことがあるのではないかと感じています。上下関係を過剰に意識してしまわないように、私のことも「井上さん」「やすのぶさん」と呼んでほしいですね。

Q. 社員主体で「Cleanup DEI Statement」を策定した意図は？

A. 当初は経営層で決めてトップダウンで進めることも検討しました。しかし上層部の年代が持つ価値観の、DEIにそぐわない部分を変えていかなければいけない。そしてDEIの浸透には社員一人ひとりが自分ごととしてその意義をとらえ、行動することが必要と考えました。そこで、あえて経営層は議論に入らず、多様な部門の役員から推薦された部門の代表者で構成したワーキンググループに一任しました。現場の声を取り入れ、当社の社風や人柄に沿った「ミッション、ビジョン、バリュー」を公表することができました。

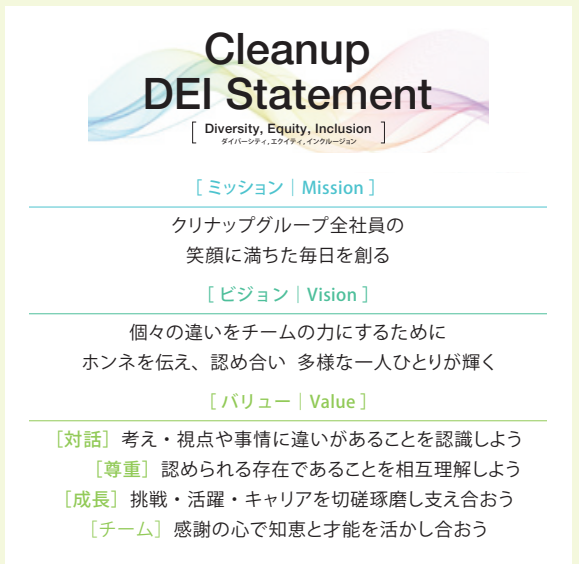
Q. 今後予定しているDEI浸透の施策は？

A. DEIの考えの下、今後さまざまな施策を具体的に打ち出していく必要があります。まずは2024年度に続き2025年度も、DEI推進プロジェクト会議を開催します。各部門の代表者による意見を踏まえて、「Cleanup DEI Statement」の実現に向けた施策案を検討していきたいと思っています。人事規程の一部改定なども始めていますが、一方で、制度を動かす立場である役員の理解が浅ければ、社員へのDEI浸透はままなりません。例えば2024年度は執行役員を対象に、障がいを持つ社員が多く在籍する特例子会社クリナップハートフルでの業務体験を実施しました。これは多様性を実感していただくもので、参加者から「社員の努力を肌で感じた」「社員との交流をもっと深めたい」という声も聞かれ、DEIへの理解が深まったと考えています。2025年度

は9月に、役員を対象としたDEIセミナーを予定しています。

Q. DEI推進を通して目指すクリナップ像は？

A. 当社には「一家一族」という創業の理念があります。これは「全員参加の企業、そして会社という家をつくり上げる」という創業者の信条が元であり、75年間、当社が大切にしてきた精神です。「Cleanup DEI Statement」は、その一家一族の精神を今の時代の言葉に置き換えつつ、時代の変化に合わせた考え方を加えたものです。社員は共に働く“家族”であり、お互いを認め合い、成長し、モノづくりを通じて社会に貢献したいという気持ちは変わりません。これからもクリナップらしさを体現しながら、自発的に会社の課題を話し合い、建設的な対話ができる環境をつくり、社員が活き活きと笑顔で働ける会社を目指します。



「Cleanup DEI Statement」(抜粋)

「Cleanup DEI Statement」
<https://cleanup.jp/policy/diversity-equity-inclusion.shtml>

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン

クリナップは、これまで女性が活躍できる職場づくりに取り組んできました。これをさらに発展させて、誰もが活躍できる会社を目指し、公平公正な組織でお互いを受容し合い「対話」をすることで、多様な人材である一人ひとりの社員がやりがいを感じられるようDEIを推進します。

推進体制

ダイバーシティ経営へのシフトが、当社の成長に大きく寄与することから、2024年度に新たに重要課題と位置づけ、DEI推進プロジェクトを立ち上げました。あるべき姿や各種施策な

どをサステナビリティ委員会に報告し推進しています。2025年5月にはDEIで目指す姿を明確にするために「Cleanup DEI Statement」を発表し、DEIの浸透にいっそうの弾みをつけていきます。

社員のキャリア形成支援

DEI推進の一つとして、コース転換制度や社内公募制度による社員のキャリア形成支援に積極的に取り組んでいます。

女性活躍推進

クリナップのDEIへの取り組みは、女性視点を経営／ビジネスに取り入れることを目指すことから始まりました。女性に限らず多様な価値観を受容することで、経営面でも多様な意見や発想が広がっていくことが期待できます。女性管理職比率は、2025年4月現在3.7%(11名)となりました。社員一人ひとりが能力を最大限に発揮でき、その成長を会社の成長へとつなげていける職場を目指し、報酬総額の男女間の格差低減に取り組むなど、関連施策のさらなる推進を図っていきます。また、女性総合職の採用にも力を入れており、女性総合職は2025年4月時点で177名です。

女性活躍推進の状況

	単位	2022年度	2023年度	2024年度
女性 管理職数	単体	名	9	9
	連結	名	13	11
女性 管理職比率*	単体	%	3.1	3.1
	連結	%	3.8	3.5

*2025年4月時点の女性管理職比率は、単体3.5%、連結3.7%

社員一人あたりの報酬総額の男女比*

	単位	2022年度	2023年度	2024年度
男女の賃金の 差異	単体	%	62.1	66.1
	連結	%	—	70.2

※クリナップは、同じ役割・職種において男女同一賃金ですが、勤続年数が長い場合は給与が高くなる傾向にあり、勤続年数が長い従業員の男性比率が高いことや、給与所得の高い職種の男性比率が高いことにより賃金の男女差が発生したと考えています

*「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規程に基づき算出
対象範囲：正規雇用労働者、パート・有期労働者



女性のキャリア形成支援と両立支援

クリナップの女性社員は、全体の約1/3(2025年3月時点)で、その約半数が全国のショールームアドバイザーとして活躍しています。そのためショールームでのリーダー役の養成と仕事への意欲を高める施策が重要と考え取り組んできました。その結果、女性のショールーム所長が多数誕生しました。企画や管理部門での管理職登用も進めていますが、そのなかにはショールームでのリーダー経験を基に活躍の場を広げている社員もいます。

また、営業や生産現場において、女性リーダーに向けての施策を実施しており、現場からの自発的な取り組みも進んでいます。

さらに、結婚や出産による離職者は減少し、キャリア継続を選択する女性社員が増えています。育児短時間勤務の拡充や、一度離職しても復職可能な「カムバック制度」の運用を拡大し、積み上げてきたキャリアを継続していけるよう支援しています。

男性育休推進

企業理念「家族の笑顔を創ります」を実現するためにも、男性育児参加の推進は、企業として不可欠な取り組みと考えています。2030年度までに取得率100%を目指し、社内報に男性育休取得者とその上司のインタビューを掲載したり、男性育休取得に特化したガイド『男性育休取得推進ガイド』を社内イントラネットに掲載したりしています。

※男性の育児休業取得率は、P.31に掲載しています

シニア活躍支援

クリナップグループでは、長年にわたって培ってきた技術や経験を次世代に継承し、世代を超えた価値観を共有するため定年後再雇用制度を導入しています。2024年度は定年退職者数61名中49名を再雇用しました。また、シニア活躍の支援制度として50歳以上を対象とする「ネクストステージプラン制度」を設け、50歳時に今後のキャリアをどのように構築していくかを考える「キャリアプランセミナー」と、56歳時に定年前後の情報提供を行う「ライフプランセミナー」(マネープランの設計や社会保険の基礎知識など)を実施しています。そして59歳時には「定年退職ガイダンス」を実施し、60歳定年時の選択肢について、定年後再雇用制度と社外への再就職支援サービスの説明を行っています。

障がい者への就労機会提供

障がいのある社員が、社会的に「自律」し地域社会と「共生」できる会社を目指し、2008年に特例子会社クリナップハートフル株式会社を設立しました。障がいのある社員は、グループ内の施設管理やデータ入力、発送作業、パン製造・販売などの業務に従事しています。生産工場においても、柔軟な勤務時間への対応、定期的な面談を設けるなど、働きやすい体制を整備し、障がい者雇用に取り組んでいます。また、障がい者の就労についての理解を深めるため、執行役員を対象にしてハートフルでの業務体験が開催されました。



クリ夫のパン屋で働く皆さん

障がい者雇用者数／雇用率

		単位	2022年度	2023年度	2024年度
障がい者雇用者数	連結	名	59	61	59
障がい者雇用率	連結	%	2.45	2.48	2.42

※一部の子会社を除く

多様な社員の活躍推進

多様な社員が活躍できる機会を創出することで、DEIが目指す多様な価値観を認め合いイノベーションを創造する風土醸成につなげていきます。2025年4月には退職者の復職を促す「カムバック採用」を柔軟化(限定的な退職事由の緩和、勤続年数要件の短縮等)し、即戦力人材の再活躍を支援していきます。

多様な社員の雇用に向けた取り組み(経験者、外国人)

雇用の種類	内容
経験者雇用	・業界経験者、建築など各種専門能力保有者の雇用に注力 ・業界未経験者も誠実かつ前向きに取り組む人材を中心に積極的に雇用
外国人雇用	・多様な社員の活躍推進施策として、外国人労働者の雇用を継続する

採用者数の推移(新卒、経験者、外国人)

		単位	2022年度	2023年度	2024年度
新卒	単体	名	81	123	134
経験者*	単体	名	83	101	104
外国人	連結	名	0	1	2

*正社員登用による社員は除く。2024年度からの集計基準変更のため、2022年度、2023年度を再集計し修正

人材育成

クリナップは、当社がかかげる理念の実現に資する人材の育成を心がけています。また、社員の自立的な能力開発とキャリア形成を推進すべく、自己啓発支援と資格取得支援を行っています。

人材育成基本理念

企業目標に貢献する組織と個人の目標を持ち、各自がより高みを目指し、組織の枠を超えてチーム力を促進させる人材を育成します。



人材育成基本理念・方針
https://cleanup.jp/policy/hr_development.shtml

推進体制

中期経営計画、年度方針に基づいた人材育成活動業務の全社統制および円滑な業務推進を目的に、人事担当役員を議長とし、部門横断的なメンバーで構成した人材育成推進会議を開催しています。

全社教育

当社は人材育成の仕組みとして、スキルマップを設定しています。職能等級ごとに求める職務能力基準とカリキュラムを視える化し、適正な人材育成につなげています。

社員一人当たり年間合計研修時間

		単位	2022年度	2023年度	2024年度
年間合計研修時間	単体	時間	—	—	20.0

※社内eラーニングなど、オンライン学習時間は除く



教育研修制度
<https://cleanup.jp/recruit/education/>

成長支援制度

〈クリナップビジネススクール(CBS)〉

自己啓発支援策の一環として、通信教育とeラーニング講座を実施しています。階層別、スキルマップ必修、部門別・推奨コースを設け、職務に必要な講座の選択が可能です。受講講座を定められた期間内に修了した受講者には、奨学金を支給しています。

〈公的資格取得支援〉

社員の自己啓発支援(幅広いスキルや専門知識・技能の取得)を目的に、会社で定める公的資格(キッチンスペシャリストや建築士、販売士など)を取得した社員にお祝い金を支給しています。

主な研修制度

〈次世代リーダー育成プログラム(CBA)〉

クリナップの10年後を切り拓いていく次世代リーダー育成のために、2021年に開講しました。6カ月のプログラムを経て、経営層にプレゼンテーションする機会を設けているのが特徴です。業務の中核を担う社員が、自ら教育機会を選択し、本講座にて視座を高め視野を広げることで、10年後のクリナップを創造できる次世代リーダーや次世代マネジメント職を中長期的に育成し、組織力向上を図ることを目指します。徐々にその成果が現れており、育成プログラムを修了した社員が中心となって新プロジェクト(未来キッチンプロジェクト)をスタートさせました。このプログラムを通じて、社員自らが提案し会社を動かしていく風土に変化してきています。女性の参加者もあり、今後の成果に期待しています。

〈ブラザー・シスター制度〉

新入社員が配属後、スムーズに職場環境に慣れ、仕事に関するスキルを習得することを目的とした制度です。

先輩社員がブラザー・シスターとして指導にあたり、仕事のみならず、日常生活の困りごとについても相談相手としてフォローします。

〈新入社員研修〉

定期学卒社員については、入社後の約3週間の研修で、社会人としての基本スキル、会社や業界の概要と歴史、商品知識などを習得します。入社・赴任から約1年後にはステップアップ研修(工場見学研修含む)、2年後にはジャンプアップ研修を実施、入社時から現在までを振り返り、現状の課題を整理した後、今後のアクションプランを各自で設定します。

キャリア採用社員は、2024年度より入社時研修プログラムを確立しました。1年目にはオンデマンド教育で会社のビジョンやミッション、各部門の役割と業務内容を学び、2年目には工場見学を通じて実践的な知識を習得します。

選抜・選任型研修の参加者数

	単位	2022年度	2023年度	2024年度
次世代リーダー育成プログラム(CBA)	名	21	20	21
ブラザーシスタープログラム	名	62	72	94



働きやすい職場づくり

お客さまのみならず、社員の家族の笑顔も創っていきたい、クリナップグループはその想いを行動理念「私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります」に込めています。サステナブルな考えを軸に「社員が健康的に安心して働くことができ、多様な人材が活躍できる職場環境や企業風土の実現」を掲げ、多様な社員が心身ともに健康で充実した生活を送り、それぞれが能力を十分発揮できるような職場環境の整備に取り組んでいます。

推進体制

クリナップグループの人的資本に対する全社的な方向性や施策を検討する会議体として、2022年4月に人事部門長を責任者とする「人的資本分科会」を設置しました。全社員を対象にしたエンゲージメントサーベイの調査結果などをもとに、CSV30に掲げた「2030年までに女性管理職比率15%、有給休暇取得率60%、男性育児休業取得率100%」達成にむけ、あるべき姿・方向性・施策をまとめ、サステナビリティ委員会へ報告しました。2024年度からは、人事部門が主管となって推進し、サステナビリティ委員会へ報告する体制をとっています。

多様な働き方推進への取り組み

次世代法行動計画(2021～2025年度)

次世代育成支援対策推進法(次世代法)に則り、行動計画を策定して、より働きやすい職場環境の構築を通じて多様な働き方の支援を図っています。

ワークライフバランスを実現する休暇制度

休暇の種類	内容
リフレッシュ休暇	心身のリフレッシュを目的に勤続の節目の年(5,10,20,30年)に2～5日の休暇が取得可能
アニバーサリー休暇	本人および家族に関する記念日において、1日の休暇取得が可能
マイバースデー休暇	本人の誕生月内において、1日の休暇取得が可能
ファミリーバースデー休暇	家族の誕生月内において、1日の休暇取得が可能
ボランティア休暇	自然災害での社会貢献活動など、ボランティア活動に参加することを目的に最大5日の休暇取得が可能

休暇取得率(育児・介護・有給)

男性育児休業については、徐々に育児休業を取得する意識が根つき始め、取得率が大きく伸びています。女性の育児休業については100%を維持しています。

育児休業取得率・取得者数／介護休業取得者数

			単位	2022年度	2023年度	2024年度
育児休業	単体	男性	% (名)	52.2(24)	71.2(37)	70.7(29)
		女性	% (名)	100(47)	100(45)	100(51)
		合計	% (名)	76.3(71)	90.1(82)	82.6(80)
	連結	男性	% (名)	56.6(30)	70.2(40)	75.0(36)
		女性	% (名)	100(52)	100(50)	100(58)
		合計	% (名)	88.2(82)*	84.1(90)*	85.5(94)
介護休業	単体	男性	名	0	0	0
		女性	名	3	3	0
		合計	名	3	3	0
	連結	男性	名	－	1	0
		女性	名	－	4	0
		合計	名	－	5	0

* 2024年度からの集計基準変更のため、2022年度、2023年度を再集計し修正

有給休暇取得率

			単位	2022年度	2023年度	2024年度
取得率	連結	%		61.3	63.8	66.7

人事データ

			単位	2022年度	2023年度	2024年度
社員数*1	単体	男性	名	1,960	1,977	1,958
		女性	名	966	996	1,039
		合計	名	2,926	2,973	2,997
	連結	男性	名	2,333	2,349	2,319
		女性	名	1,123	1,154	1,197
		合計	名	3,456	3,503	3,516
女性社員比率	単体	%		33.0	33.5	34.7
	連結	%		32.5	32.9	34.0
平均年齢	単体	歳		41.1	41.1	41.0
	連結	歳		41.0	41.1	41.8
平均勤続年数	単体	年		16.0	16.0	15.1
	連結	年		15.0	15.1	15.0
離職率*2	単体	%		6.0	6.1	5.2
	連結	%		－	6.3	5.2

*1 社員数は就業人員で記載

*2 離職率は正社員・契約社員の自己都合退職者を対象

社員の健康増進の取り組み

社員の健康増進は会社の責務であるとの認識から、以下の健康方針を掲げ取り組んでいます。

健康方針(抜粋)

〈基本理念〉

クリナップの健全な企業活動とは、社員の身体的・精神的・社会的健康と不可分な関係と認識し、社員が健康で業務に専念する為の健康確保・健康保持増進活動を推進します。



健康方針

<https://cleanup.jp/policy/health.shtml>

時間外労働削減の取り組み

モバイルワークやパソコンのシャットダウンシステム、フレックスタイム制などを導入して時間外労働削減に取り組み、効率的な業務遂行を推進しています。

一人あたりの平均時間外労働の推移

			単位	2022年度	2023年度	2024年度
平均時間外労働	単体	時間		21.9	21.7	23.6
	連結	時間		－	15.7	21.9

ドライバーの働き方改革に対する取り組み

クリナップグループの物流を担うクリナップロジスティクス株式会社では、働き方関連法の改正に伴う、ドライバーの長時間拘束の改善策として、中継輸送を活用して安定した長距離輸送による貨物供給を進めています。

労働安全衛生

クリナップ工場グループ安全衛生方針

〈基本理念〉

クリナップは、当社で働く全ての人が安全で健康的な働きやすい職場環境を確保するよう、安全衛生活動を推進します。

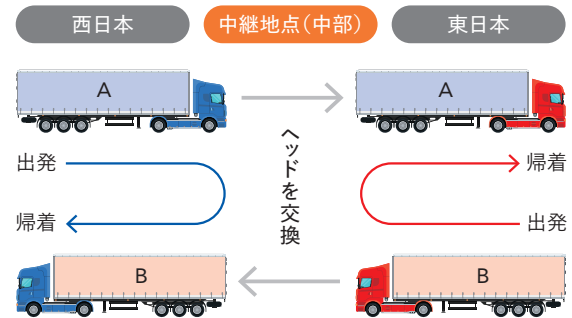


クリナップ工場グループ安全衛生方針(全文)

https://cleanup.jp/policy/occupational_safety.shtml

〈トレーラーを活用したドライバーの長時間拘束の改善〉

工場から出荷される製品を輸送する際に、中継地点でヘッドを交換(下図)することで、ドライバーの東日本、西日本を跨いだ運行を見直し、東西エリア内運行とする試みを開始。ドライバーの長時間拘束の改善につなげています。



- ・前のヘッド部(赤色、青色部分)は、東西エリア内の運行
- ・後のトレーラ部(A、B部分)は、全国へ輸送

メンタルヘルス

クリナップグループは、2024年度の取り組みとして、ストレスチェックと産業医面談およびメンタルヘルスに関する面談を適宜実施しました。

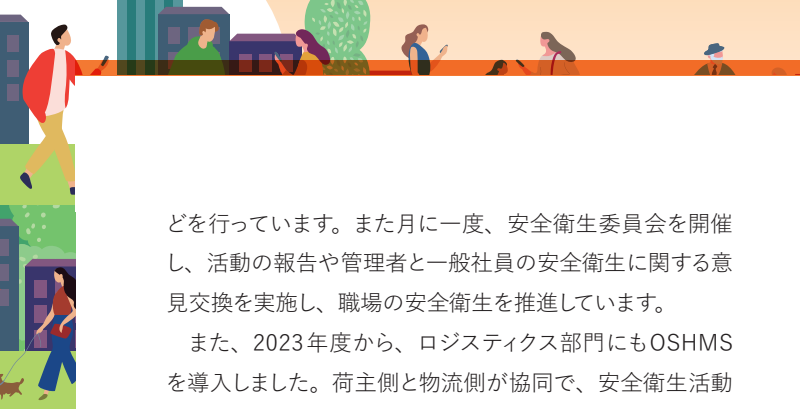
良好な職場コミュニケーションの実現

2006年度に開始した「事業所スポーツ文化活動補助金制度」は、職場内のコミュニケーションの向上と心身のリフレッシュを目的に、事業所メンバーで行うスポーツ活動や文化活動に対し補助金を支給する福利厚生制度です。2024年度は、延べ21事業所、全122名に対して、補助金を支給しました。

労働安全衛生マネジメントシステム

クリナップ工場グループでは、労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を導入しています。生産本部長が制定する安全衛生重点施策に基づき、各工場長が工場の特性を踏まえた安全衛生計画を策定します。この安全衛生計画に沿って全社員が一体となり安全衛生活動のPDCAサイクルに取り組んでいます。

主な安全衛生活動としては、安全衛生管理者や産業医による職場巡視、ヒヤリハットや気づきがあった現場の確認な



どを行っています。また月に一度、安全衛生委員会を開催し、活動の報告や管理者と一般社員の安全衛生に関する意見交換を実施し、職場の安全衛生を推進しています。

また、2023年度から、ロジスティクス部門にもOSHMSを導入しました。荷主側と物流側が協同で、安全衛生活動に取り組んでいます。

〈1. リスク低減活動の標準化継続〉

・機械設備及び作業に潜むリスクを着実に低減する

機械設備の不安全状態を新基準で再評価、作業（定常・非定常・異常時対応作業・荷役作業）時の不安全行動を手順書や安全ルールブック等を活用して再評価し、リスク低減を行います。安全基準や作業の急所を正しく理解して維持継続できるような活動に取り組んでいます。

〈2. 危険意識高揚による安全意識の深化〉

・全社員が安全・衛生を正しく理解し行動できるようにする

全社員が安全衛生を正しく理解し行動できるよう、始業時KY活動や安全衛生教育を充実させます。また、ヒヤリハットや気づき報告、安全相談会等で社員とのコミュニケーションを図りながら、全社員が積極的に安全衛生活動を行い、互いに指摘し合える風土づくりに取り組んでいます。

〈3. 多様な人材が活躍できる快適な職場環境づくりの推進〉

・エルゴノミクス活動

女性、外国人、高齢者、障がい者などの多様な人材が活躍できるよう、重筋作業や認知負荷作業の見直しを行っています。

社員教育

〈物造り学校 登工房〉

工場グループでは、プロ人材の育成、安全・品質・環境の理解と継続的改善、CPSを基軸とした収益力と現場力の向上を図るため、次の社員教育を行っています。

(1) 役割教育

新入社員研修、3年目研修、若手社員研修、管理監督者教育

(2) 安全衛生教育

職長教育(TWI-JS)、危険体感教育、普通救命救急特別教育(粉じん、アーク溶接、低圧電気、自由研削といし)5年毎教育(フォークリフト運転、作業主任者等)

(3) 能力向上教育

CPS改善、品質管理、設備保全

仕事の教え方(TWI-JI)、人の問題の扱い方(TWI-JR)

全講座数：45、25年度計画：92回

保安防災

〈緊急事態への対応〉

クリナップ工場グループでは危険物類・化学物質類・廃棄物の適正な保管、燃焼・汚水処理施設の運転や操作方法のミスによる環境汚染や健康被害の予防、安全確保のため、定期的に「緊急事態対応訓練」として実際の道具を使用した訓練を行っています。

今後も施設や設備の点検を定期的に行い、事故の発生を未然に防止しながら、緊急事態発生に備えた対応訓練を継続していきます。

想定した緊急事態

- ・ボイラー、危険物類からの火災
- ・危険物、化学物質の漏えい、地下浸透
- ・廃棄物(木くず、樹脂、金属の削り粉)の飛散



緊急事態対応訓練

避難訓練

人権デューデリジェンス実施体制と運用

人権方針に基づき、クリナップにおける人権リスクの特定および優先付け、また、人権デューデリジェンスについて、各関係部門が連携して検討、推進しています。なお重大な人権リスクについては、サステナビリティ委員会、およびリスクマネジメント委員会との連携体制により、予防と適切な対応を行います。

一次サプライヤーに対しては、人権を含むESGの取り組みについてアンケートを実施するなど、パートナー企業間で、人権尊重に対する意識醸成を図っています。また、重大な人権リスクのひとつであるハラスメントについて、役員研修や全社員を対象としたeラーニングを実施するなど、更なる予防策を講じています。

また、2025年度より、人権デューデリジェンス体制を強化するため、人事部門を主管とした人権ワーキンググループをキックオフし、運用／推進しています。

CSR調達の推進

クリナップグループは、取引先さまと信頼関係を築き、社会的責任を果たす調達活動を目指した「調達方針」のもと「クリナップグループCSR調達ガイドライン」を制定し、運用しています。

調達方針

私たちクリナップグループは、取引先さまと公正、自由、透明な競争原理をもって、サプライチェーン全体で共存共栄をはかり、社会的責任を果たしてまいります。

1. 取引先さまに競争の機会を公正・公平に提供します。
2. 取引先さまの選定は、品質・価格・納期・技術開発力・安定供給能力・環境対応などの総合的な評価と適正な手続きにより行います。
3. 法令、社会的規範などを遵守し、人権、安全衛生、環境など社会的責任を果たす調達活動を行います。
4. 取引先さまと相互理解を深め信頼関係を大切にしています。

(2020年9月1日)

カスタマーハラスメント対応について

クリナップグループは、「家族の笑顔を創ります」を企業理念とし、お客さまのご期待に最大限お応えすることで質の高い製品やサービスを持続的に提供し、「笑顔」をお客さま、家族そして社会へ広げることを目指しています。これを実現するために2025年6月に「カスタマーハラスメント対応方針」を公表し、当社グループで働くすべての従業員が安全で働きやすい環境をつくるよう努めています。

「カスタマーハラスメント対応方針」では、お客さま等のご意見、ご要望に対して真摯に対応する一方で、カスタマーハラスメントに該当すると判断した場合は、社員を守るために毅然とした対応を行い、必要によりお客さまへの対応をお断りする、または悪質と判断した場合は警察や弁護士等と連携し、法的措置も含めて厳正に対処するという企業としての対応姿勢を打ち出しています。

また、カスタマーハラスメントが発生した場合の具体的な対応方法や手順など必要な体制を整備し、対策を進めています。



カスタマーハラスメント対応方針

<https://cleanup.jp/policy/customer-harassment.shtml>

CSR調達ガイドライン

クリナップグループは、取引先さまとともに社会からの期待に応え、責任ある調達活動を行っていくため、「クリナップグループCSR調達ガイドライン」を2020年9月に制定しました。本ガイドラインは、クリナップグループが調達活動において取引先さまにお願いする事項を9項目にまとめたものです。

ガイドラインを各取引先さまへ送付し、同意確認を行うなどして本ガイドラインの主旨についてご理解とご協力をいただき、公正で透明なCSR調達を推進していきます。

またサプライチェーンの取引先さまや価値創造を図る事業者さまと新たなパートナーシップを構築するため、サプライチェーン全体の共栄共存と規模・系列を超えた新たな連携および振興基準の遵守に重点的に取り組むことを2025年3月にパートナーシップ構築宣言にて表明しています。



パートナーシップ構築宣言

<https://www.biz-partnership.jp/declaration/87759-05-24-tokyo.pdf>



グリーン調達

2007年度から、取引先さまにグリーン調達のアンケート調査を実施し、取引先さまの環境保全活動の取り組み状況を確認しています。取り組みのランクに応じた支援活動を行い、取引先さま全体の環境保全に対する底上げを実施し、環境に対する社会的要求をサプライチェーン全体で取り組む活動を行っています。

2024年度は、当社グループのOEMメーカー、部品材料メーカー、外注先の合計138社にアンケート調査を行いました。調査結果に基づき、環境取組企業レベルを6段階で評価しており、改善を要請した取引先さまはありませんでした。アンケートの内容等については、社会情勢の変化に合わせた見直しも今後検討を進めていく予定です。

社会、文化性をもった貢献活動

クリナップグループは、スポーツや教育、食育などの文化活動や福祉活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。

有料老人ホーム「感謝の郷いわき」および介護事業の運営

介護事業を通じた持続可能な高齢社会の実現を目的として、2005年9月に住宅型・介護付併設の有料老人ホーム「感謝の郷いわき」を福島県いわき市に開設しました。また、居宅介護、訪問介護、介護タクシー、福祉用具レンタル・販売など包括的な福祉サービス事業で地域社会に貢献しています。



感謝の郷いわき

レスリング部とクリナップキッズいわきレスリングクラブ

1992年のレスリング部創部以来、スポーツ振興の一環として企業スポーツの運営に取り組み、これまで2名のオリンピック選手を輩出しています。現在は2024年世界選手権優勝の石井選手、準優勝の青柳選手を含め、3名がロス五輪を目指しています。また、生産拠点がある福島県いわき市では、地域の小中学生を対象とした「クリナップキッズいわきレスリングクラブ」の運営を支援しています。



さらなる飛躍を誓うクリナップキッズの選手、コーチ

 クリナップレスリング部
<https://cleanup.jp/wrestling/>

アンケート調査の項目

1. 環境面での経営者の責任意識
環境方針、環境計画の策定、情報公開などの環境経営力など
2. 環境技術力
開発・設計、省エネ、公害対策、省資源、リサイクルなど
3. 経費節減対策
省エネ・省資源
4. その他
物流管理、廃棄物管理、オフィス環境管理など

クリナップ財団の奨学支援

東日本大震災の翌年、2012年に福島県内における被災地復興支援の一環として「公益財団法人クリナップ財団」を設立しました。福島県出身者で福島県内の大学、高等専門学校などに進学する、学業優秀で向学心旺盛ながら、経済的な理由で就学が困難な学生を対象に、給付型奨学金制度を設け、奨学支援を行っています。2013年度から2025年度までの13年間で累計奨学生は560名となりました。



奨学金授与式に参加した学生

各地での地域文化に協賛

本社や工場をはじめ、全国にある営業拠点では、地域に根差した事業活動を推進するなか、その土地の歴史や文化を継承する行事に協賛するなど、地域の活性につながる活動に参加しています。これらの活動は、社員が日本の文化を深く体験することができる機会であるとともに、地域の人々との笑顔をつくる大切な対話の機会になっています。



地域の祭に参加する秋田営業所社員



コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

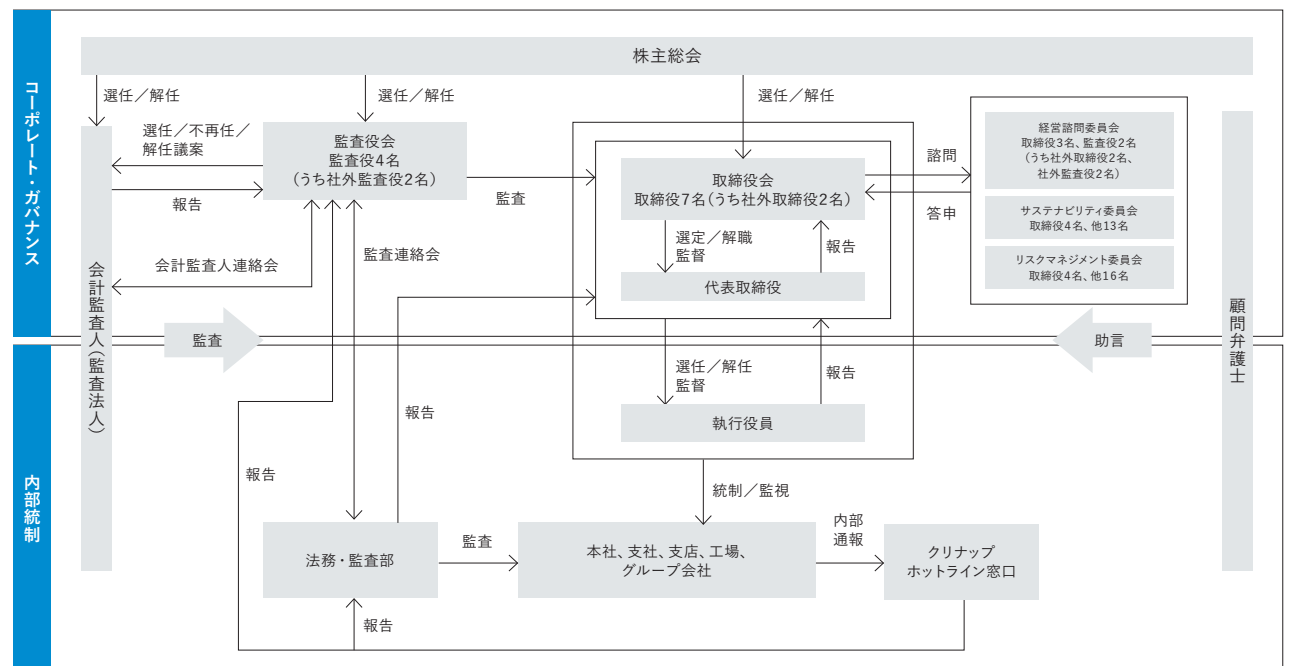
1. 株主の権利を尊重し、株主の実質的な平等性の確保に努める。
2. ステークホルダーとの適切な協働を図る。
3. 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
4. 取締役会による業務執行機能を実効化する。
5. 株主との間で建設的な対話を行う。

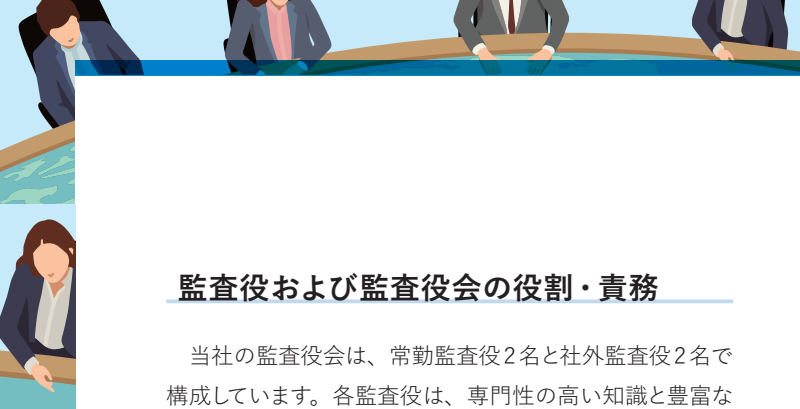
コーポレート・ガバナンスの体制

当社は取締役会、監査役会および取締役会の諮問機関として経営諮問委員会、サステナビリティ委員会、リスクマネジメント委員会を設置しているほか、執行役員制度を導入して業務執行機能を分離し、迅速な業務執行および的確な意思決定を図っています。

 クリナップグループ コーポレート・ガバナンス基本方針
https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_01.pdf

コーポレート・ガバナンスの体制図(2025年6月末現在)



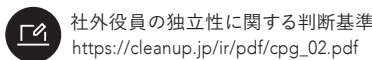


監査役および監査役会の役割・責務

当社の監査役会は、常勤監査役2名と社外監査役2名で構成しています。各監査役は、専門性の高い知識と豊富な経験を活かし、取締役の職務の執行について監査を実施し、また、適法性の観点から取締役会および経営陣に対して適切に意見を述べています。さらに、社内の経理部門、内部監査部門との連携や当社の会計監査人である監査法人との「会計監査人連絡会」の開催など、積極的な情報共有を行っています。

独立役員

当社は、社外取締役2名および社外監査役2名の社外役員全員を、当社の定める「社外役員の独立性に関する判断基準」に基づき、「当社の一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員」として認定するとともに、東京証券取引所に対し、同取引所の定めに基づく独立役員として届け出ています。



社外役員の独立性に関する判断基準
https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_02.pdf

経営諮問委員会

当社は、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の強化を図るために、2019年に経営諮問委員会を設置しました。経営諮問委員会は、過半数を独立社外役員で構成(社内取締役1名、社外取締役2名、社外監査役2名)する取締役会

の諮問機関であり、取締役の指名や報酬についての審議、答申を行っています。定期的、または必要に応じて臨時に開催し、取締役会から諮問を受けた事項などの審議、取締役会への答申を行います。

社外取締役メッセージ

クリナップは、「家族の笑顔を創る」という理念のもと、透明性と信頼を基盤としたサステナビリティ経営を推進し、環境・社会課題に向き合い、お客さまの視点に立った製品・サービスを提供しています。

グループ全体で人権尊重と環境配慮を徹底し、経営層によるモニタリングを通じて、施策の実効性を高めるガバナンス体制を構築、また、気候変動対策、資源の有効活用、そして多様な人材育成を加速させ、環境負荷の低い製品の開発を推進することで、持続可能な社会に貢献し続けています。

特に、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI) の施策は、研修プログラムの導入、育児・介護支援の拡充を通じて、インクルーシブな職場文化を醸成し、企業価値の向上に資する取り組みであると評価しています。今後も社外取締役の立場から、その発展を後押ししてまいります。



社外取締役
千代田 有子

取締役・監査役のスキル・マトリックス(2025年6月末現在)

		社外独立	企業経営・経営戦略	営業・マーケティング	生産・調達・研究開発・品質	財務・会計	法務・リスク管理	人事・労務	グローバル(国際)	IT・DX
取締役	井上 強一		●	●		●				
	竹内 宏		●	●						
	山田 雅二		●		●					
	川田 和弘		●	●		●		●		●
	井上 泰延		●				●	●	●	●
	川崎 享	●	●		●				●	
	千代田 有子	●					●		●	
監査役	島崎 憲夫		●	●	●	●	●	●		●
	伊藤 慶一					●	●			
	新谷 謙一	●					●			
	高品 彰	●				●	●			

※ESG・サステナビリティ、SCMは「企業経営・経営戦略」に含まれるものとなります

役員紹介(2025年6月末現在)

取締役



代表取締役会長
井上 強一
1974年7月 当社入社
1978年3月 当社取締役
1983年3月 当社代表取締役副社長
1987年7月 当社代表取締役社長
2017年1月 当社代表取締役会長(現任)



代表取締役 社長執行役員
竹内 宏
1979年4月 当社入社
2012年7月 当社執行役員
2014年7月 当社常務執行役員
2016年6月 当社取締役
2018年4月 当社代表取締役社長執行役員(現任)



取締役 専務執行役員
山田 雅二
1978年4月 当社入社
2012年7月 当社執行役員
2016年6月 当社取締役(現任)
2016年7月 当社常務執行役員
2018年7月 当社専務執行役員(現任)



取締役 専務執行役員
川田 和弘
1982年4月 当社入社
2014年7月 当社執行役員
2015年7月 当社常務執行役員
2018年6月 当社取締役(現任)
2019年7月 当社専務執行役員(現任)



取締役 専務執行役員
井上 泰延
2014年3月 当社入社
2017年3月 当社執行役員
2019年6月 井上興産株式会社代表取締役(現任)
2019年7月 当社常務執行役員
2020年6月 当社取締役(現任)
2021年7月 当社専務執行役員(現任)



社外取締役
川崎 享
1995年10月 川崎電気エンジニアリング株式会社代表取締役社長
2001年12月 シーアンドケー株式会社代表取締役社長
2013年5月 株式会社エム・アイ・ビー代表取締役社長(現任)
2015年5月 株式会社リンガーハット社外取締役(現任)
2016年6月 当社社外取締役(現任)



社外取締役
千代田 有子
1994年4月 弁護士登録、開業
2002年1月 千代田法律事務所開設
同事務所代表(現任)
2016年6月 当社社外取締役(現任)
2020年6月 株式会社TBK社外取締役(現任)

監査役



常勤監査役
島崎 憲夫
1978年4月 当社入社
2008年5月 当社執行役員
2014年6月 当社取締役
2014年7月 当社常務執行役員
2020年6月 当社常勤監査役(現任)



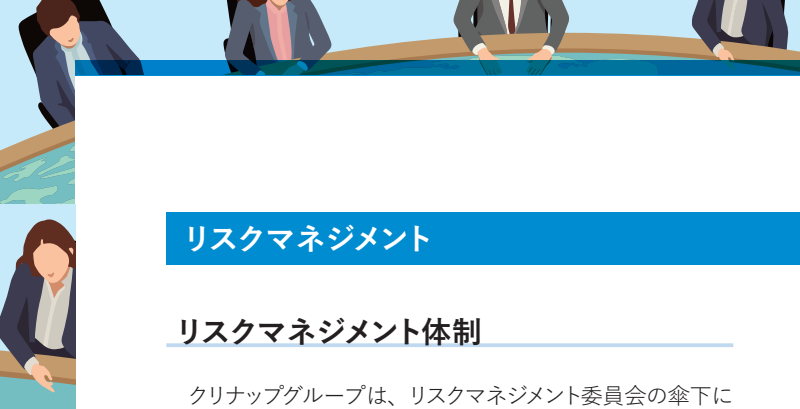
常勤監査役
伊藤 慶一
1992年4月 当社入社
2022年4月 当社経理部長
2024年4月 当社監査役付
2024年6月 当社常勤監査役(現任)



社外監査役
新谷 謙一
1985年4月 弁護士登録、開業
2000年6月 当社社外監査役(現任)



社外監査役
高品 彰
1983年9月 公認会計士登録、開業
2004年6月 明和監査法人代表社員
2013年7月 日本公認会計士協会本部理事
2019年6月 当社社外監査役(現任)



リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

クリナップグループは、リスクマネジメント委員会の傘下に「内部統制部会」「コンプライアンス部会」「BCP／SCM部会」を設置し、各分野の課題対応について立案し、リスクマネジメント委員会に報告する体制をとっています。

また、重大なリスクが発生した場合やそのおそれが生じた場合には、内部統制をはじめ、内部監査、監査役監査、会計監査などが連携し、取締役会に報告され、速やかに是正措置を講じることができる体制を整備しています。

製品安全、安全衛生、環境保全、情報セキュリティおよび雇用などの各部門の所管業務に付随するリスクの管理については、担当取締役のもとに管理体制を整え、リスクの発生や拡大防止に努めるとともに、発生またはそのおそれがある場合には直ちに担当取締役に報告する体制をとっています。

危機管理体制

クリナップグループは、自然災害など、経営に重大な損害や影響などを与える可能性のある不測の事態の発生に備え、危機管理体制の整備を推進しています。

リスクマネジメント委員会において、将来起こり得る損失の発生についての予測・低減・回避に全社的に取り組むとともに、「危機管理規程」およびその他の関連規程による危機管理体制の確認を行うなど、企業活動における対処すべきあらゆるリスクの発生に対して事前に把握・管理し、対策を講じる体制を整えています。

情報セキュリティ

クリナップグループは事業活動において保有する情報資産を重要な資産と位置づけ、その改ざん、破壊、流出などを防ぐため、「セキュリティポリシー」を掲げ、関連規程によって

情報システムを利用する社員が遵守すべきルールを定めています。また、実施している既存のセキュリティ対策について、定期的に評価と見直しを行い、情報資産やネットワークのセキュリティ強化・維持に努めています。

なお、年々高度化しているサイバー攻撃への対策として以下の取り組みを実施しています。

サイバー攻撃への対策

- ・クリナップグループが所有するパソコンやサーバ、通信機器、ソフトウェアの設定やセキュリティ対策の標準化、自動化
- ・外部（インターネット）と社内ネットワークの間、および社内ネットワークのなかでの通信内容の監視、収集／分析
- ・会社からパソコンを貸与されている社員を対象としたeラーニング（年1回）や抜き打ちでの模擬攻撃メール対応訓練

お客さま情報の保護

クリナップグループはお客さまの重要な情報である、マイナンバー（個人番号）、個人情報、プライバシーに関する情報などについて、その保護の重要性を認識し、「個人番号及び特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針」および「個人情報保護方針」に従い、適切な管理体制のもとで取得、利用するとともに、紛失、漏えいを防止するための対応を行っています。

 個人番号及び特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針
<https://cleanup.jp/policy/mynumber.shtml>

 個人情報保護方針
<https://cleanup.jp/policy/privacy.shtml>

内部統制

内部統制システムの整備

クリナップグループは、「クリナップグループ内部統制システムの整備に関する基本方針」に基づき、グループ全体の業務の適正を確保するための体制整備に取り組んでいます。

 クリナップグループ 内部統制システムの整備に関する基本方針
https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_03.pdf

内部統制の体制

内部統制の体制は、内部統制部会のもと、全社活動として内部統制システムの整備および運用課題の改善に取り組んでいます。統制活動にかかわる評価を、各業務の管理部門が、監査役、会計監査人、内部監査部門と連携して行っています。また、評価の結果を共有し、一元的に取り組むことで、全社的改善につなげています。

内部監査

当社の内部監査は、内部監査部門が担当し、担当執行役員が承認した年度計画に基づき、子会社を含めたクリナップグループの事業所に対し、業務の適法性および妥当性の両面から監査を実施しています。その結果を代表取締役および担当執行役員ならびに監査役などに報告しています。また、課題改善についての提言や、改善の状況についての確認などを適宜行っています。

コンプライアンス

クリナップグループ行動基準

クリナップグループは、コンプライアンスの徹底に向け、社員一人ひとりが自ら考え、自ら行動するための基準として「クリナップグループ行動基準」を制定し、都度見直しています。「クリナップグループ行動基準」の周知徹底と理解促進を図るため、事例などによってより分かりやすく解説した「クリナップグループ行動基準ハンドブック」をすべての役員と社員に配付しています。

内部通報制度「クリナップホットライン」

クリナップグループは、コンプライアンスにかかわる問題の早期発見と是正に、迅速かつ確に対応するため、内部通報制度として、「クリナップホットライン」を運用しています。制度の浸透を図るため、「クリナップグループ行動基準ハンドブック」に、制度の趣旨のほか、社内窓口と社外窓口（顧問弁護士）の設置をはじめとする詳細を記載し、周知しています。なお、2024年度の通報件数は12件でした。また、「内部通報対応規程」を定め、運用の厳格化と通報者保護の徹底に努めています。

内部通報の実績					
		単位	2022年度	2023年度	2024年度
通報件数	連結	件	9	9	12

腐敗防止

クリナップグループの腐敗防止に向けて、「クリナップグループ行動基準ハンドブック」に「汚職の禁止」などの項目を設け、周知を図っています。

監査役監査

監査役は、監査役監査の実効性の確保の取り組みとして、監査上不可欠な情報を十分に入手するため、取締役会、執行役員会その他重要な社内会議に出席するほか、取締役や各部門の責任者との面談や重要書類の閲覧を行っています。またグループ監査役会における子会社監査の状況確認や、内部監査部門より内部通報を含めた監査状況の報告を定期的に受ける体制を整備しています。

反社会的勢力排除への取り組み

当社は、「クリナップグループ行動基準」において、反社会的勢力に毅然とした態度で対応し、一切のかかわりを持たないことを定めています。2010年には「反社会的勢力排除に向けた基本方針」を制定し、反社会的勢力排除に向けた社内体制を整備するなど、全社的な取り組みを行っています。

 反社会的勢力排除に向けた基本方針
<https://cleanup.jp/company/antisocial.shtml>

コンプライアンス教育

クリナップグループは、全社員に継続的な教育として「行動基準ラーニング」を毎年実施し、コンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。

また、業務遂行にあたり社員が知っておくべき重要な個別法令や社内ルールについて、クリナップグループ共通のeラーニングと各部門向けにカスタマイズした個別のeラーニングを実施して周知・徹底を図っています。社員には、各々の業務内容に応じて受講すべきテーマを設定し、毎年の受講を義務づけることで、最新の知識を習得できるようにしています。

重要な個別法令や社内ルールにかかわるeラーニングの一例

- ・景品表示法（不当景品類及び不当表示防止法）
- ・著作権、肖像権
- ・下請法（下請代金支払遅延等防止法）
- ・ハラスメント
- ・情報セキュリティ
- ・安全運転、交通事故防止

第三者意見

クリナップサステナビリティレポートが対象報告期間とする2024年度は、2024中期経営計画(2024-2026)のスタート年度にあたるとのこと。長期ビジョン：クリナップサステナブルビジョン2030との関係では、前の2021中期経営計画(2021-2023)がESG／SDGs視点での経営基盤強化フェーズであるならば、2024年度以降は成長を支える経営基盤の強化フェーズとして、ファン化を促進し、専門力を強化するフェーズに突入したとのこと。

ファン化を促進し、専門力を強化する。これまでの経営基盤強化のフェーズでは自らの努力次第で成果が上がりやすいフェーズでもあったかと考えられますが、ファン化を促進するということは、今後さらに一層、さまざまなステークホルダーを意識し信頼を勝ち得て、彼らに共感を得る、感動を共に分かち合う経営が求められるフェーズに入ったものと考えます。そこで今回私は、クリナップのより一層のファンになれるかという点に自らの視座を設定、サステナビリティレポート全体を拝読したところ、生の、活きた言葉の紹介や、活動の紹介がいくつかなされていたことに、共感を覚えることができました。

社長メッセージでは、ある営業所の男性社員の育児休業を契機として、業務分担の見直し、ひいては営業所内のコミュニケーションが活性化し、全国1位の売上を達成する成果があったことが紹介されていました(9頁)。DEI推進が業績に直結する可能性が読者としての私にわかりやすく伝わり、取り組み成果としての萌芽を受けとめることができます。

また、DEI(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)ご担当の取締役専務執行役員井上様のインタビュー記事でも、ホンネで議論することが多様な価値観の対話の出発点であり、そうした会話が自然にあって初めてイノベーションを促す風土になると考える、そこでの阻害要因のひとつが役職で呼び合うことではないかと井上取締役ご自身が考えておられ、自らを「井上さん」「やすのぶさん」と呼んでほしい、とのコメント紹介がありました(27-28頁)、クリナップグループの取り組みとしての親しみやすい具体的な取り

組みの一端を外部の者として知ることができ、結果としてクリナップへのファン化に繋がるように感じ入りました。

多様な価値観の対話がイノベーションの出発点であるというのは、まさにその通りだと思いますし、イノベーションなくして、クリナップが2024中期経営計画で目指すもう一方の、専門力の強化も難しくなるのではないのでしょうか。そのイノベーションの原動力となるのは、このサステナビリティレポート全体で強調されている通り、ホンネで話し合える風土を育み、社員の皆さんがいかに社会の課題に目を向け、クリナップグループとして何ができるか、懸命に試行錯誤することから生まれるのがイノベーションにおける王道の筋道です。日々見聞きするニュースにおいて、自分なら、自社グループならばどう解決することができるのか、現時点でどれくらいの力を持っているのか、もしくは今後においてどのように力を持つことが出来そうなのか、そういったことを真剣に日々の研鑽を伴いつつ考える、感度のよいアンテナを持った社員層の豊かさが、これからの全ての企業のレジリエンスを伴う成長力を決するよう思います。

未来キッチンプロジェクトの取り組みとして循環ろ過機能を備えた可動式のモビリティキッチンを産学共同で開発、2024年9月には給排水設備のない居室に導入したシンクユニットが手洗いや洗顔などに問題なく利用できることが実証できたとのこと(14頁)。さらに2025年1月には、中学校での防災イベントにおいて、ろ過循環装置の提供により避難所運営を想定した訓練を支援、災害時にも活用できる次世代型キッチンの有用性が実感できたとのこと(同14頁)ですが、給排水設備がなければシンクユニットは存在しえないと私などは思っていたが、その常識はこの記事を拝読した後において常識ではなくなり、給排水設備がなくてもクリナップの社会貢献力は実現、活躍の場が広がる可能性をこの事例は具体的に示してくれました。そのような事例紹介は、2024中期経営計画(2024-2026)におけるファン化を促進し、専門力を強化することの今後の成功を、私に予感させてくれます。



公認会計士。1996年より大手監査法人にて環境経営やCSR全般のコンサルティング、検証業務のマネジメントに携わる。2006年独立。株式会社サステナビリティ会計事務所を設立し、CSRへの取り組み支援や評価向上支援などを継続して行う。2008年、各種レポート制作をワンストップで直接請け負うサスティービー・コミュニケーションズ株式会社を設立。CSR・財務双方にわたる広範なノウハウを活かし、企業の自主的かつ健全な情報開示をサポート。著書に企業のサステナビリティ経営のポイントを1冊に詰め込んだ『CSRエピソード』(幻冬社)、『ストーリー オブ サステナビリティ』(風詠社)がある。

株式会社サステナビリティ会計事務所 代表取締役／公認会計士
福島 隆史 氏

会社概要 (2025年3月31日現在)

クリナップは、1949年、座卓を製造販売する事業から始まりました。その後、システムキッチンメーカーへの事業シフトをしてから、暮らしのなかに新製品を送り出し続け、新しい暮らしを提案し、今では、システムキッチン、システムバスルーム、洗面化粧台などの水まわり住宅設備機器の専門メーカーとして事業活動を行っています。

企業データ

(社名)	クリナップ株式会社
(英文社名)	Cleanup Corporation
(代表者)	代表取締役 社長執行役員 竹内 宏
(本社所在地)	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
(創業)	1949年10月5日
(会社設立)	1954年10月5日
(上場)	東京証券取引所 プライム市場
(資本金)	132億6,734万円
(決算期)	3月31日(年1回)
(従業員数)	3,516名(連結)
(事業内容)	厨房機器／システムキッチン、流し台など 浴槽機器／システムバスルーム、人工大理石浴槽、ステンレス浴槽など 洗面機器／システム洗面化粧台、洗髪洗面化粧台、洗面収納キャビネットなど その他／その他住宅設備機器

クリナップグループ

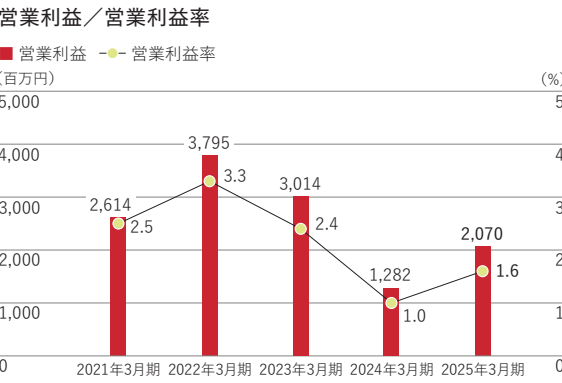
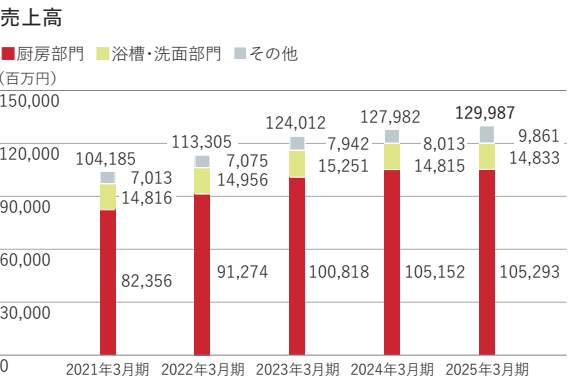
国内：本体および連結子会社7社

クリナップ株式会社
株式会社クリナップステンレス加工センター(生産)
井上興産株式会社(商社)
クリナップロジスティクス株式会社(運輸)
クリナップテクノサービス株式会社(取付・設置・サービス)
クリナップキャリアサービス株式会社(人材派遣・介護)
クリナップハートフル株式会社(障がい者雇用)
クリナップソリューション株式会社(情報システム)

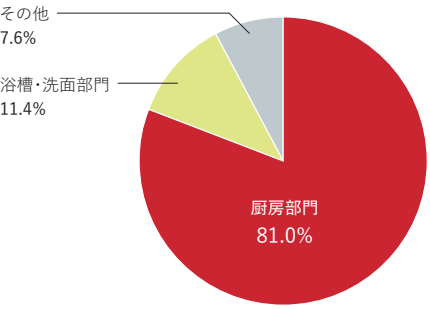
海外：連結子会社1社

可麗娜厨衛(上海)有限公司(原材料および商品の販売)

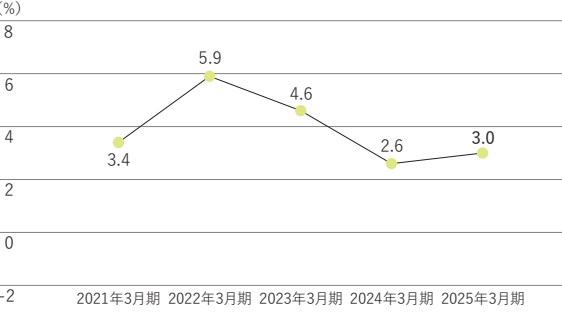
業績の推移(連結)



売上構成 部門別(2025年3月期)



ROE



クリナップは、
未来をつくる子どもたちと一緒に
これからのキッチンを考える
「未来キッチンイラストコンテスト」を
開催しています。



第2回「未来キッチンイラストコンテスト」最優秀賞
永井 秀弥さん(千葉県流山市立おおたかの森小学校 6年生)

クリナップ株式会社

<https://cleanup.jp>



この印刷物はサステナブルな社会の実現を目指して、適切に管理された森林およびその他の管理された供給源由来のFSC®認証紙を使用し、Scope1とScope2のCO₂排出量を実質ゼロにしたカーボンゼロプリント工場で印刷しています。



この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。



この印刷物は、リサイクル印刷版を使って印刷しています。